

警子ちゃん 3G シリーズ

DN-1300GL

ネットワーク警告灯

取扱説明書

2012 年 9 月 5 日 版

株式会社　アイエスエイ

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。　　　　　　　　　　VCCI-A

限定保証について

保証規定に明記されている場合を除いて、アイエスエイは当製品の使用による直接的、間接的、例外的、偶発的、結果的な損害に対し、いかなる責任も負いません。またアイエスエイは、売上や利益の損失、機器の損失、機器の使用の損失、ソフトウェアの損失、データの損失、代用あるいは第三者によるクレーム、その他いっさいの費用について責任を負いません。

用途限定について

人の生命に関わる装置など（注）には、絶対に使用しないこと

（注）：人の生命に関わる装置などとは、以下のものをいいます。

- 手術室用機器
- 生命維持装置（血液透析器、新生児人工保育器、血液ポンプ、人工呼吸器など）
- 有毒ガスなどの排ガス、排煙装置
- 消防法、建築基準法などの各種法令により設置が義務付けられている装置
- 上記に準ずる装置

ご利用の前に

必ずユーザ登録をしてください。ユーザ登録されていないお客様については保証期間内であってもサポートサービスが受けられない場合があります。ユーザ登録は製品に同梱されている「お客様登録FAXカード」をご利用頂くか、弊社ホームページからご登録頂く事も可能です。

URL: http://www.isa-j.co.jp/support/user/

目次

(ファームウェアバージョン 13.009.0E 以降対応)

1. 安全にお使いいただくために

この取扱説明書では製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人への危害や財産への被害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。ご使用の前に必ずお読みください。また、お読みになった後はお使いになる人がいつでも見られるところに保管してください。

表示と意味は次のとおりです。

危険	取り扱いを誤った場合に使用者が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示します。
警告	取り扱いを誤った場合に使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	取り扱いを誤った場合に使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

危　険

●ご自身での分解・修理・改造は絶対に行わないでください。
●本体、警告灯、ブザーの隙間から水や金属などの異物を入れないでください。

警　告

●異音や異臭がした場合は使用を中止して販売店にご連絡ください。
●本体、警告灯、ブザーに水がかかるようなところでは使用しないでください。
●水や薬品などの液体をこぼさないでください。
●ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしないでください。
●持ち運びのときには落としたり、衝撃を与えたりしないようにしてください。
●雷が鳴りだしたら電源コードのプラグには触らないでください。

注 意

●お客様ご自身で装置内部にさわったり修理や改造したりしないでください。本装置内部には高い電圧がかかっている部分があるため、感電する恐れがあり、大変危険です。絶対にカバーをはずさないでください。
●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。

●傷んだ電源コードや電源プラグおよびコンセントの差し込みがゆるい時は使用しないでください。
●標高の高いところ（PC に準じる）では使用しないでください。
●調理台のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。
●移動させるときは衝撃を与えないでください。
●振動の激しいところでは使用しないでください。
●湿気やほこりの多い場所では使用しないでください。
●暑い場所（45℃以上）や直射日光の当たる場所では使用しないでください。
●火気に近づけないでください。
●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所へは置かないでください。
●本体を布などでおおったり、包んだりした状態で使用しないでください。
●強力な磁気を持っているもののそばには置かないでください。
●本体の上に重いものをのせないでください。
●コンセントから電源コードを抜くときはコードを引っ張らず必ずプラグを持って抜いてください。

2. 概要

DN-1300GL（以下、本製品）は、ネットワーク･デバイスの異常時にブザー、警告灯や電子メール等により異常発生を管理者に知らせるシステムです。オフィスでの使用はもちろん工場や離れた場所での異常発生をいち早く確認できます。LAN による接続で遠隔設置された機器の監視が可能となります。
本製品のみでコンピュータ、ネットワーク機器の自動チェックが可能で、ネットワーク･デバイスに異常があれば自動的に音や光、そしてメール等で通報します。SNMP トラップ受信が可能で、これらをトリガとした通報も可能です。また HP Network Node Manager software などのネットワーク管理ソフトウェアと連携して管理する事が可能です。本製品の設置は管理ステーション側または監視の機器側のどちらにでも設置できます。

＜主な特長＞

(1) 監視用ソフトウェアやサーバは不要、OS を問いません
(2) 設定は Web により簡単に行えます
(3) 自動サーチ機能による対象デバイス設定の容易さ
(4) 最大 20 デバイスまでのネットワーク監視が可能
(5) 最大 40 個（20 組）の SNMP トラップ受信をトリガとしたアクション実行が可能
(6) 最大 8 種類までの警報設定が可能
(7) ルータ越えの監視･通知が可能
(8) ネットワーク上へのブロードキャスト通知(IP Messenger 対応)
(9) 電子メール通知機能(PC や携帯電話対応)
(10) SNMP による管理、トラップによる通知可能
(11) ログ機能により障害解析が容易
(12) ウォッチドッグ･タイマ機能により自己診断を行い、異常時は自動再起動します
(13) 異常時･異常回復時に実行するリモートシェルコマンド登録が可能
（複数台の連動、接点信号のネットワーク分配、ISA製RPC※1を連動させOSシャットダウンも可能）
(14) HP Software などのネットワーク管理ソフトウェアとの連携可能
(15) 管理者負担を著しく低減し、コストダウンを計れます
(16) 遠隔監視によりサーバやネットワーク機器の完全無人運転が可能
(17) 企業内サーバルームや iDC での利用に最適
(18) 10Base-T/100Base-Tx 自動認識･切換

※1 Model7030、7040、PDU-5000 シリーズ。詳細はお問合せください。

3. 設置について

3.1. 構成

本製品は以下の構成からなっています。すべてそろっているかどうかをご確認ください。また輸送中に損傷を受けていないかもご確認ください。

万が一損傷があった場合にはお買い上げの販売店までご連絡ください。

足りない物があったり、違う物が入っていた場合はお買い上げの販売店にご連絡ください。

標準構成品

□ DN-1300GL 本体	1 台
□ DN-1300GL 専用 AC アダプタ	1 台
□ 結束バンド	1 本
□ マウントベース（結束バンド固定具）	1 個
□ お客様登録 FAX カード	1 枚

（「15章 アフターサービスについて」参照）

3.2. 設置条件

次の環境条件に適した、安定した水平な場所に置いてください。

・周囲温度が 45℃以下の室内（20〜30℃が望ましい）
・結露しないこと（湿度 20〜85%RH）
・水の浸入のない所、あるいは水の滴下などで濡れるおそれのない所
・直射日光の当たらない所
・塵埃のない所
・可燃ガス、腐食性ガス、及び霧状の油（オイルミスト）等のない所
・振動のない所
・火花や発熱体が近くにない所
・大容量のモーターの動作しない所
・強力な電気、ノイズのない所

4. 各部の名称と機能

4.1. 本体正面



図1 DN-1300GL-5LCB / 5LCW / 5LSB / 5LSW (正面)
※写真は DN-1300GL-5LCB



図2 DN-1300GL-3LCB / 3LCW / 3LSB / 3LSW (正面)
※写真は DN-1300GL-3LCB

①	LED1 (赤)	⑤	LED7 (白)
②	LED2 (黄)	⑥	説明ラベル貼付スペース
③	LED6 (青)	⑦	ブザー音調節レバー
④	LED3 (緑)		

ブザー音調節レバーで 70〜90dB に調整が可能です。

4.2.   ALARM STOP ボタン

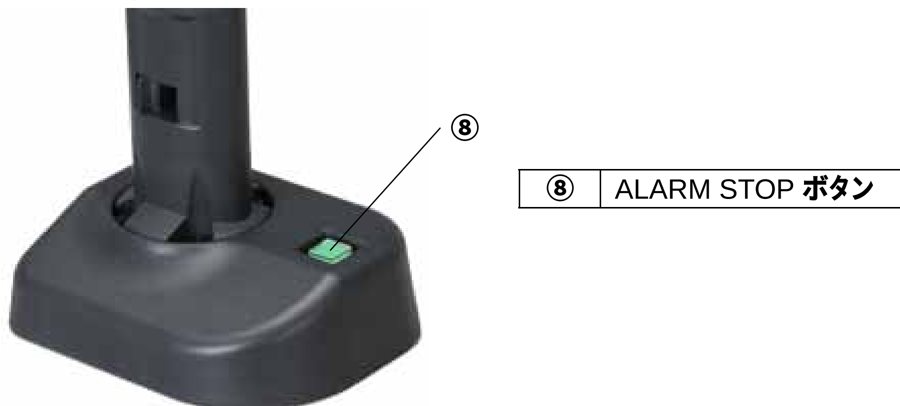


図3 土台部分上部 (共通)

■ アラーム解除

強制的にアラームを解除する（ランプ・ブザーなどの出力を OFF にする）ためのボタンです。アラーム解除方法には 2 つのモードがあり、7.1章ユニット設定ページで選択します。

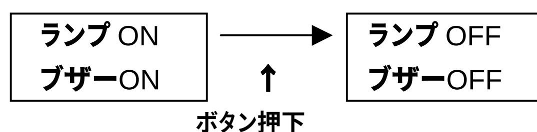
モード 1

ブザーが鳴っていればブザーだけを OFF にします。ブザーが鳴っていなければランプを OFF にします。



※ ランプ ON、ブザーOFF 時に他の監視項目などで異常を検知すると、ブザーが再度 ON します。

モード 2　全てのランプとブザーを OFF にします。



ALARM STOPボタンのアクション※2を使用し、かつ、ALARM STOPボタン押下によるランプ・ブザーのアラーム解除を同時に行う場合、短時間のボタン押下ではALARM STOPボタンのアクションは実行されますが、ランプ・ブザーのアラーム解除が実行されない場合があります。アクション実行とアラーム解除を同時に行うためには、ALARM STOPボタンをしっかり押し、アラーム解除されたことを確認してからボタンを放すようにしてください。

※ SNMP トラップ監視機能を使用している場合、ランプ／ブザー停止だけでなく、異常ステータスも解除します（回復トラップの受信と同じ状態になります）。

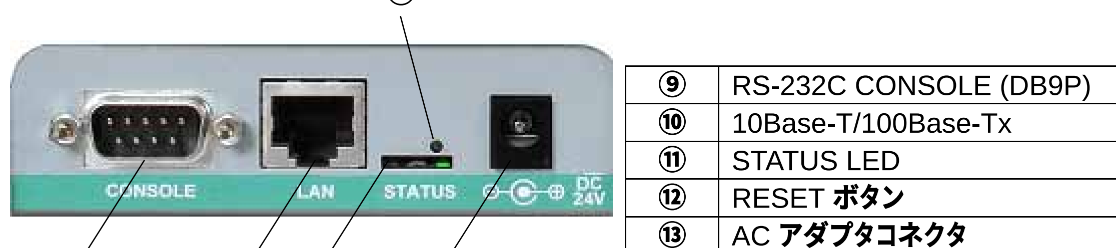
※2 ALARM STOPボタンのアクションについてはP39「7.3.4 ALARM STOP」を参照してください。

■ **テスト実行**

このボタンは本製品が異常を検知している時以外に押すと、ランプとブザー(警報出力)のテストを実行します。ランプが点灯するまでボタンを押してください(約 5 秒)。ランプ、ブザーが順番に点灯・鳴動します。
本製品が異常を検知している間※3、テストは実行されません。

テスト実行の間隔は余裕を持って行ってください。

4.3. 本体背面



⑨	RS-232C CONSOLE (DB9P)
⑩	10Base-T/100Base-Tx
⑪	STATUS LED
⑫	RESET ボタン
⑬	AC アダプタコネクタ

図4 背面 (共通)

(STATUS LED)

③ ② ①

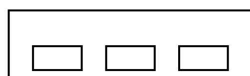


図5 STATUS LED

①	WatchDog	正常時緑点滅
②	Error	未使用
③	Link/Activity	リンク時緑点灯、LAN 通信時緑点滅

本体背面の RESET ボタンを押すと本製品は再起動します。設定内容は消えません。

※3 モニタ表示ページの「状態」欄に "警告" の表示がある時

5. 設置と接続

5.1. 設置

DN-1300GL を平坦な場所に設置してください。また、AC アダプタのケーブルと LAN ケーブルが引っ張られて抜けることを防ぐために、結束バンドとマウントベースで固定します。

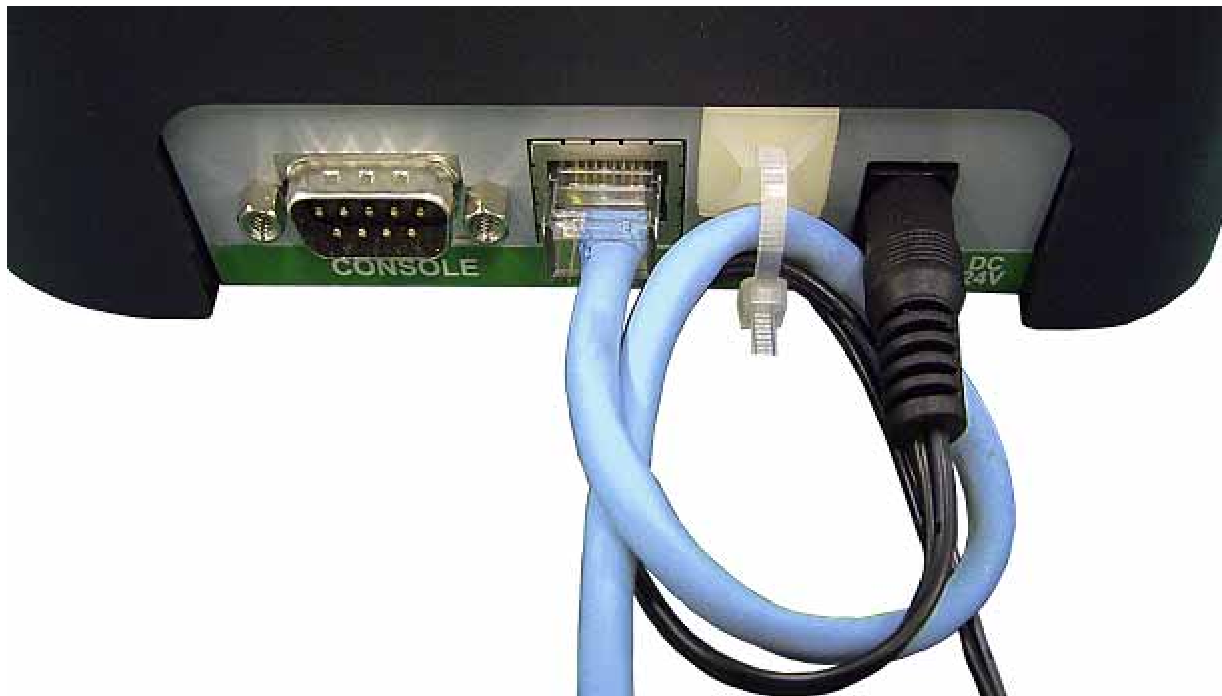


図6 LAN ケーブルと AC アダプタのケーブルを固定

5.2. LAN への接続

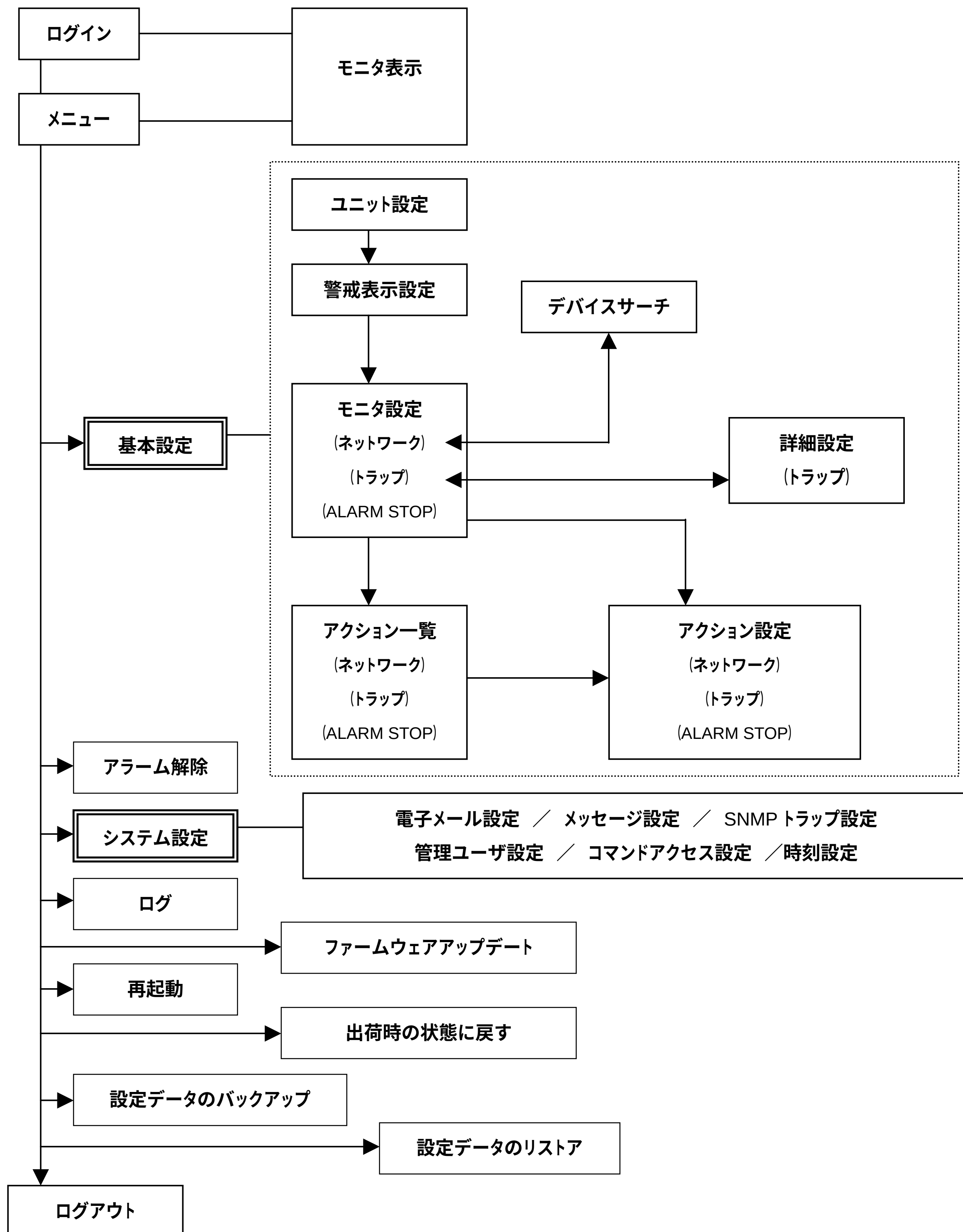
本製品と HUB を Ethernet ストレートケーブルで接続します。PC と直接接続する場合は Ethernet クロスケーブルを使用してください。はじめて本製品にアクセスする場合や、他のネットワークに設置してあったものを移動してきた場合は、IP アドレス設定作業が必要になります。詳細は6.2章を参照してください。

5.3. 電源の投入

DN-1300GL 背面の AC アダプタコネクタに付属の AC アダプタを接続し、AC アダプタを AC100V のコンセントに接続してください。本体に電源が投入されます。また、電源投入から本体が起動するまで（通信できるようになるまで）2～3 分程かかります。

6. Web 設定ツールに関して

6.1. 処理の流れ



6.2. 設定ツールの起動

本製品の設定変更はブラウザを使って行います。ここでは、Microsoft Internet Explorer **を例に説明します。**
本ツールは Microsoft Internet Explorer **バージョン** 6 **以上、**Mozilla Firefox 3.6 **以上で検証されています。**

補足 ブラウザ以外にも、本体の CONSOLE ポートと PC を RS-232C クロスケーブルで接続し、通信ソフトを利用する事により IP アドレスを設定する事ができます。詳細は付録 A (ネットワーク管理ソフトウェアとの連携) を参照してください。

本製品の工場出荷時 IP **アドレスは**“192.168.1.1”**です。**
はじめて本製品にアクセスする場合や、他のネットワークに設置してあった装置を移動してきた場合は、以下の作業が必要になります。

(1) **設定に使用する** PC **の** IP **アドレスを変更します。**
購入後はじめてアクセスする場合は“192.168.1.***”**に変更します。**
別のネットワークから移動してきた場合は、現在本製品に登録されているアドレスに従い変更してください。

ここでは Windows XP **を例に操作を説明します。**

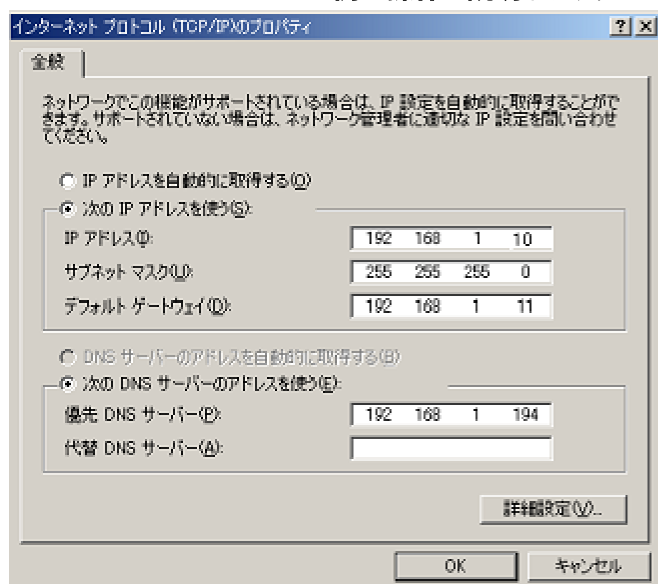


図7 インターネットプロトコル (TCP/IP)のプロパティ

1) **デスクトップ上の「マイネットワーク」を右クリックし「プロパティ」を選択**
2) **「ローカルエリア接続」を右クリックして、「プロパティ」を選択**
3) **「ローカルエリア接続のプロパティ」内の「インターネットプロトコル** (TCP/IP)**」を選択し「プロパティ」ボタンをクリック**
4) **「インターネットプロトコル** (TCP /IP) **のプロパティが表示されます。**

「IP **アドレス」タブの** IP **アドレスを第** 3 **オクテットまで本製品と同じ数値に変更します。**Windows 95/98/NT4.0 **で設定する場合、**IP **アドレス変更後一旦** PC **を再起動する必要があります。**

(2) **本製品と設定用** PC **を** Ethernet **クロスケーブルで接続します。**
HUB **を介して接続する場合は** Ethernet **ストレートケーブルで接続します (他の機器は接続しないでください)。**

(3) **ブラウザを開き、ファイルメニューの「開く」を選択します。**
http://192.168.1.1/ **と入力し「**OK**」ボタンを押します。**

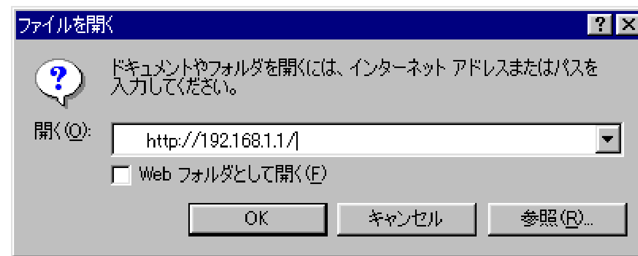


図8 ファイルを開く

「DN-1300 Setup Tool」**ページが表示されます。**
IP **アドレス変更後は新しいアドレスを使用して接続してください。**

ネットワーク管理者がいる環境では、必ずその管理者の指示に従ってください。
適切な管理者がいない場合は、必要に応じて事前に専門家に相談するなどしてください。
ネットワークアドレス（**ホスト部を** 2 **進数ですべて** 0 **にした値、例**: 192.168.1.0）**とブロードキャストアドレス**（**ホスト部を** 2 **進数ですべて** 1 **にした値、例**: 192.168.1.255）**は使用できません。**

6.3. モニタ表示

本製品に登録されている情報と現在の状態が表示されます。

DN-1300 設定ツール - Windows Internet Explorer

http://192.168.1.71/cgi-bin/start.cgi

モニタ表示

ユーザ名:

パスワード:

ログイン

DN1300 Setup Tool

F/W: 13.007.0E
S/N: 1010910001
製造年月: 11/2010

モニタ表示　現在時刻:2010年11月26日（金）15時33分（UTC+9 JST, KST, YAKT）

DN-1000　機器名称

ネットワーク	監視対象	監視	説明	状態
デバイス 1	192.168.1.101	有効	DB server 1	正常
デバイス 2	192.168.1.102	有効	DB server 2	正常
デバイス 3	192.168.1.3	有効	DHCP server 1	正常
デバイス 4	192.168.1.4	有効	DHCP server 2	正常
デバイス 5	192.168.1.111	有効	File server 1	正常
デバイス 6	192.168.1.112	有効	File server 2	正常
デバイス 7	192.168.1.10	有効	無線ルータ	正常
デバイス 8	192.168.1.20	有効	printer 1	警告
デバイス 9	192.168.1.21	有効	printer 2	正常
デバイス 10	192.168.1.22	有効	printer 3	警告
デバイス 11	192.168.1.5	有効	Domain server	正常
デバイス 12	192.168.1.6	有効	Domain server bk	正常
デバイス 13	123.123.123.123	有効	Mail server	正常
デバイス 14	192.168.1.2	有効	gateway	正常
デバイス 15	123.123.123.124	有効	web main	正常
デバイス 16	123.123.123.125	有効	web sub	正常
デバイス 17	192.168.1.250	有効	PDU-5115S 1	正常
デバイス 18	192.168.1.251	有効	PDU-5115S 2	警告
デバイス 19	0.0.0.0	無効		
デバイス 20	0.0.0.0	無効		

トラップ	送信元	監視	説明	状態
トラップ 1	0.0.0.0	有効	SNMPトラップ1	正常
トラップ 2	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ2	正常
トラップ 3	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ3	警告
トラップ 4	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ4	正常
トラップ 5	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ5	正常
トラップ 6	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ6	正常
トラップ 7	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ7	正常
トラップ 8	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ8	正常
トラップ 9	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ9	正常
トラップ 10	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ10	正常
トラップ 11	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ11	正常
トラップ 12	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ12	正常
トラップ 13	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ13	正常
トラップ 14	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ14	正常
トラップ 15	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ15	正常
トラップ 16	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ16	正常
トラップ 17	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ17	正常
トラップ 18	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ18	正常
トラップ 19	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ19	正常
トラップ 20	192.168.1.59	有効	SNMPトラップ20	正常

外部信号	監視
ALARM STOP	無効

ページが表示されました　インターネット｜保護モード: 無効　100%

図9 モニタ表示

タイトル	内容
ネットワーク	ネットワーク監視（最大 20 ノード）
監視対象	監視対象 IP アドレス
監視	有効　または　無効
説明	監視対象の説明
状態	監視対象の状態
トラップ	SNMP トラップ受信（最大 20 組）
送信元	SNMP トラップ送信元 IP アドレス
監視	有効　または　無効
説明	SNMP トラップの説明
状態	監視対象の状態
ALARM STOP	ALARM STOP ボタン
監視	有効　または　無効

【状態の表示に関して】

正常（緑）	正常	監視対象は正常
警告（赤）	警告	監視対象の異常を検出し、本製品がアラーム ON の状態
警告（黄）	警告	監視対象の異常を検出し、本製品が強制アラーム OFF（アラーム解除）されている状態 ※トラップの監視にこの表示はありません。

6.4. 設定ツールにログインする

工場出荷時本製品に設定されている「ユーザ名」と「パスワード」は共に"DN1300"です。これを入力し「ログイン」ボタンをクリックしてください。
「ユーザ名」と「パスワード」の変更は9.4章で説明します。

ログインするとメニューが表示されます。

図10 ユーザ名とパスワードの入力欄

ログインした状態のままブラウザを終了させると、次にログインを実行してもエラーになります

但し、設定したオートログアウト時間を経過すれば、ログインが可能です。
オートログアウト時間に関しては7.1章を参照してください。

オートログアウトを待たずに再ログインする場合は、強制ログアウトを実行します。ブラウザのアドレス部に http://192.168.1.1/cgi-bin/logout.cgi と入力・実行してください。
（192.168.1.1 部分は本製品の IP アドレスを入力してください）

ログイン後、ブラウザの「更新」を実行すると、本ツールよりログアウトしてしまい、次のログイン時に「既に他のユーザーがログインしています」のメッセージが表示される事があります。その際は上記、強制ログアウトを実行後に再度ログインを実行してください。
また、ブラウザの「戻る」「進む」を実行すると、設定が再実行される事があります。

6.5. メニュー

<table>
<tr><th colspan="3">メニュー内容</th><th>説明</th></tr>
<tr><td colspan="3">モニタ表示</td><td>監視対象の状態を表示</td></tr>
<tr><td rowspan="12">基本設定</td><td colspan="2">ユニット設定</td><td>本製品のアドレス等の設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">警戒表示設定</td><td>警戒表示の設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">モニタ設定
(ネットワーク)</td><td>ネットワーク監視対象の設定</td></tr>
<tr><td rowspan="4">モニタ設定 (トラップ)</td><td>トラップ 1-5</td><td>SNMP トラップ受信の設定
(トラップ 1-5)</td></tr>
<tr><td>トラップ 6-10</td><td>SNMP トラップ受信の設定
(トラップ 6-10)</td></tr>
<tr><td>トラップ 11-15</td><td>SNMP トラップ受信の設定
(トラップ 11-15)</td></tr>
<tr><td>トラップ 16-20</td><td>SNMP トラップ受信の設定
(トラップ 16-20)</td></tr>
<tr><td colspan="2">モニタ設定
(ALARM STOP)</td><td>ALARM STOP ボタン監視の設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">アクション一覧/設定
(ネットワーク)</td><td>ネットワーク監視対象異常検知時に実行するアクションの一覧及び監視対象毎の設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">アクション一覧/設定
(トラップ)</td><td>SNMPトラップ受信時に実行するアクションの一覧及び監視対象毎の設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">アクション一覧/設定
(ALARM STOP)</td><td>ALARM STOP ボタン押下時に実行するアクションの一覧及び設定
本製品では設定できません</td></tr>
<tr><td colspan="3">アラーム解除</td><td>監視対象異常によるアラームを強制的に解除</td></tr>
<tr><td rowspan="6">システム設定</td><td colspan="2">電子メール設定</td><td>電子メール通知を行うための設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">メッセージ設定</td><td>IP Messenger による通知を行うための設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">SNMP トラップ設定</td><td>SNMP トラップ通知を行うための設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">管理ユーザ設定</td><td>本ツールにログインするためのユーザとパスワードの設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">コマンドアクセス設定</td><td>本製品に RSH コマンドアクセス可能なユーザの設定</td></tr>
<tr><td colspan="2">時刻設定</td><td>本製品の時刻を設定</td></tr>
<tr><td colspan="3">イベントログ</td><td>タイムスタンプ付きのイベントログ</td></tr>
<tr><td colspan="3">ファームウェア・アップデート</td><td>ファームウェアのアップデート</td></tr>
<tr><td colspan="3">DN-1300GL の再起動</td><td>本製品を再起動</td></tr>
<tr><td colspan="3">設定を工場出荷時の状態に戻す</td><td>IP アドレス、サブネット、ゲートウェイ、管理ユーザ以外の設定を出荷時の状態に戻す</td></tr>
<tr><td colspan="3">設定データのバックアップ</td><td>設定したデータをバックアップ</td></tr>
<tr><td colspan="3">設定データのリストア</td><td>バックアップしたデータをリストア</td></tr>
<tr><td colspan="3">ログアウト</td><td>本ツールよりログアウト</td></tr>
</table>

一定時間アクセスしないと、自動的にログアウトします。

この時間はユニット設定ページで変更が可能です。

6.6. 設定の更新

　設定の更新を行うと、「入力データを更新しました」等のメッセージボックスが表示されます。OK ボタンをクリックし、設定を完了させてください。

7. 基本設定

【処理の流れ】



本製品の IP **アドレスなどを設定します。**

警戒表示設定を行います。

監視するモニタの設定をします。ネットワーク・デバイス、SNMP **トラップ受信、**ALARM STOP **ボタンの** 3 **種類があります。**

設定したモニタそれぞれが異常時に実行するアクションを設定します。

7.1. ユニット設定

本製品の IP アドレスなどの設定･修正を行うページです。

ユニット設定

ファームウェアバージョン 13.009.0E
MAC 00:A0:66:80:23:F3
説明
IPアドレス 192 . 168 . 1 . 73
サブネット 255 . 255 . 255 . 0
ゲートウェイ 192 . 168 . 1 . 2
SMTP Server 0 . 0 . 0 . 0
Time Server 0 . 0 . 0 . 0
タイムゾーン UTC+9 JST, KST, YAKT 東京、ソウル、ヤクーツク
メール送信先の SMTPポート 25 (初期値=25)

POP before SMTP 認証
メール送信先の POP3ポート 110 (初期値=110)
POP3 ログイン ID
POP3 ログインパスワード
POP3 ログインパスワード(確認)

モニタ間隔 1 分
オートリフレッシュ 10 秒 間隔でモニタ表示をリフレッシュします
オートログアウト 15 分 間無操作の時、ログアウトしてモニタ表示画面に戻ります
応答確認回数 2 回 応答を確認後異常と判断します
アラーム解除方法 自動 手動
アラーム解除ボタン モード1 モード2
RSH/SNMP モード (コマンド動作専用、監視機能無効)

設定 キャンセル

*IPアドレスを変更した場合は、一旦ブラウザ画面を閉じてから
再度新しいIPアドレスでDN-1300GLにアクセスして下さい

*RSH/SNMPモードの有効･無効を変更した場合、DN-1300GLを再起動する必要があります
RSH/SNMPモードではネットワーク監視･トラップ監視機能は無効となります

*設定で入力したデータをDN-1300GLに登録します

*キャンセルでDN-1300GLに登録されたデータを再表示します

図11 ユニット設定ページ

IP アドレスを変更した場合は、一旦ブラウザ画面を閉じてから再度新しい IP アドレスで本製品にアクセスしてください。

項目名	説明	工場出荷時設定
ファームウェア バージョン	本製品のファームウェアバージョン	-
MAC	本製品の MAC アドレス	00:a0:66:0f:xx:xx
説明	本製品の説明 (半角英数字と半角記号 7 種 "-_@:/()" 31 文字以内 または全角 15 文字以内)	空欄
IP アドレス	本製品の IP アドレス	192.168.1.1
サブネット	サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	ゲートウェイアドレス	192.168.1.254

項目名		説明		工場出荷時設定
SMTP Server		SMTP Server の IP アドレス 電子メール通知に必要です。		0.0.0.0
Time Server		Time Server の IP アドレス 本製品のカレンダクロックを、設定したタイムサーバに同期させます。		0.0.0.0
タイムゾーン		タイムサーバでカレンダクロック同期の際に参照されます。 (UTC-12～UTC+12 1 時間毎)		UTC+9 JST, KST, YAKT
メール送信先の SMTP ポート		SMTP Server の SMTP ポート番号です。お使いの環境に合わせて変更してください。		25
POP before SMTP 認証		POP before SMTP 認証を必要とする SMTP サーバ経由でメール送信する場合、有効に設定します。 有効に設定すると、メール送信先の POP3 ポート、POP3 ログイン ID、POP3 ログインパスワードが有効になります。		無効
	メール送信先の POP3ポート	POP before SMTP サーバの POP3 ポート番号です。お使いの環境に合わせて変更してください。		110
	POP3 ログイン ID	POP before SMTP 認証のためのログイン ID です。		空欄
	POP3 ログイン パスワード	POP before SMTP 認証のためのログインパスワードです。(入力時は伏せ字表示されます。)		空欄
	POP3 ログイン パスワード(確認)	POP before SMTP 認証のためのログインパスワードの確認用入力欄です。 (入力時は伏せ字表示されます。)		空欄
モニタ間隔 (注)		ネットワーク監視の対象をチェックする間隔 (0.25 分、0.5 分、1 分、2 分、3 分、4 分、5 分、6 分、7 分、8 分、9 分、10 分)		1 分
オートリフレッシュ		設定時間毎にモニタ表示ページの状態を更新します。(--、10～60 秒)		10 秒
オートログアウト		設定時間アクセスがないと自動的にログアウトします。(15～30 分)		15 分
応答確認回数		応答確認時に発行する ICMP パケットの回数を設定します。(2～99 回) これを 2 サイクル実施し全ての応答がなかった時に異常と判断します。		2 回
アラーム解除方法		異常回復時にアラーム解除を自動的に行うか、手動で行うかを選択します。ネットワーク監視、SNMP トラップ監視に適用されます。		自動
アラーム解除ボタン		モード 1	ブザーが鳴っていればブザーだけを、ブザーが鳴っていなければランプを OFF にします。	モード 1 「4.2 ALARM STOP ボタン」を参照してください。
		モード 2	全てのランプとブザーを同時に OFF にします。	
RSH/SNMP モード		RSH, SNMP コマンド動作専用の動作モードです。この動作モードでは監視機能は無効です。 RSH, SNMP コマンド動作の応答速度を重視される場合は、こちらの動作モードをお使いください。		無効

「設定」ボタンクリックで入力したデータが本製品に登録されます。
「キャンセル」で現在本製品に登録されているデータが再表示されます。

注) モニタ間隔を 0.5 分、0.25 分に設定した場合、状況 (監視対象が多い、異常検出が多い、アクションが多いなど) によっては次回のモニタが時間どおり実行できないことがあります。この場合、処理が終了次第次のモニタ (監視) を実行します。

メール送信時の認証方式は POP before SMTP (PbS) 認証のみ対応しています。
SSL 認証、SMTP AUTH 等には対応していません。また、SMTP サーバと認証サーバが異なる場合、メール送信が行えません。

表 1 タイムゾーンと主要な国／地域／都市一覧

タイムゾーン	主要な国／地域／都市
UTC+12	国際日付変更線 東側、フィジー
UTC+11 MAGT	マガダン、ソロモン諸島、ニューカレドニア
UTC+10 AEST, VLAT	キャンベラ、メルボルン、シドニー、グァム
UTC+9 JST, KST, YAKT	東京、ソウル、ヤクーツク
UTC+8 AWST, IRKT	北京、重慶、香港、シンガポール
UTC+7 KRAT	バンコク、ハノイ、ジャカルタ、クラスノヤルスク
UTC+6 OMST	アスタナ、ダッカ、ノボシビルスク
UTC+5 YAKT	エカテリンバーグ、イスラマバード、カラチ、タシケント
UTC+4	アブダビ、マスカット、バク、コーカサス
UTC+3 MSK	バグダッド、クウェート、モスクワ、ナイロビ、テヘラン
UTC+2 EET, USZ1	アンマン、アテネ、ブカレスト、イスタンブール、ベイルート、カイロ、エルサレム
UTC+1 CET	アムステルダム、ベルグラード、ブリュッセル、サラエボ
UTC GMT	協定世界時、ロンドン、モンロビア、レイキャビク
UTC-1	アゾレス諸島、ガーボベルデ諸島
UTC-2	協定世界時-2、中央大西洋
UTC-3	ブラジリア、ブエノスアイレス、カイエンヌ、フォルタレザ、グリーンランド、モンテビデオ
UTC-4	大西洋標準時（カナダ）、ジョージタウン、サンティアゴ
UTC-5	東部標準時（米国及びカナダ）、ボゴタ、リマ、キト
UTC-6 CST	中部標準時（米国及びカナダ）、グアダラハラ、メキシコシティ、サスカチュワン
UTC-7 MST	山地標準時（米国及びカナダ）、アリゾナ、チワワ、ラパス、マサトラン
UTC-8 PST	太平洋標準時（米国及びカナダ）、バハカリフォルニア
UTC-9 AKST	アラスカ
UTC-10 HAST	ハワイ
UTC-11	協定世界時-11、サモア
UTC-12	国際日付変更線 西側

7.1.1. 応答確認回数

LAN トラフィックが非常に高いネットワーク等で通信エラーが多発する場合、この回数を増やす事により不要な異常発報を防げます。

7.1.2. アラーム解除方法

本製品を無人または、管理者のいない所に設置するなどして、障害回復後もアラームを継続させ、管理者によって停止させたい場合は「手動」を選択してください。手動でのアラーム停止は8章「アラームの解除」を参照してください。外部信号監視には適用されません。外部信号に関しては、モニタ設定ページにて、モニタ毎に設定します。「自動」を選択した場合、障害が回復すると自動的にアラームは停止します。障害が発生したかどうかはイベントログで確認する必要があります。但し、電子メール・IP Messenger・SNMP トラップによる通知はいずれの場合も可能です。

7.1.3. 時計の同期

本製品の時計は、登録した Time Server（NTP サーバ） と同期処理を行います。Time Server が通信可能な状態であれば、毎日 00:00、及び、12:00 に本製品の時計は Time Server のシステム・クロックと同じ時刻に更新されます。また、ユニット設定ページの「設定」ボタンをクリックした時、「設定データのリストア」実行時、及び、電源投入時も数十秒後に同期処理が行われます。Time Server との同期処理に失敗した場合、5 分後に再度同期処理を試みます。試行回数は最大 10 回です。

7.1.4.　RSH/SNMP モード

RSH、SNMP コマンド動作の応答速度を重視される場合は、動作モードを RSH/SNMP モードにすることでコマンド応答速度が向上します。但しこのモードではネットワーク監視及びトラップ監視は無効です（モニタ設定・アクション設定の設定自体は可能ですが監視動作はしません。警戒表示設定は無効となります。）

RSH/SNMP モードに切り替えるにはモードを設定後、再起動する必要があります。以下にその手順を記します。

設定手順

① ブラウザページメニューのユニット設定にあります RSH/SNMP モードのチェックをつけて設定ボタンを押し、設定の完了を待ちます。（再起動を促すポップアップメッセージが表示されます）

② RSH/SNMP モードの有効・無効を切り替えた場合は動作モードを切り替えるために再起動が必要となります。ブラウザページメニューの「DN-1300 の再起動」を実行します

モニタ表示
基本設定
・ユニット設定
・警戒表示設定
・モニタ設定（ネットワーク）
・モニタ設定（トラップ）
トラップ 1-5
トラップ 6-10
トラップ 11-15
トラップ 16-20
・モニタ設定（ALARM STOP）
・アクション一覧/設定（ネットワーク）
・アクション一覧/設定（トラップ）
・アクション一覧/設定（ALARM STOP）
アラーム解除
システム設定
・電子メール設定
・メッセージ設定
・SNMP設定
・管理ユーザ設定
・コマンドアクセス設定
・時刻設定
ログ
・イベントログ
ファームウェアアップデート
DN-1300の再起動 ②
設定を工場出荷時の状態に戻す
設定データのバックアップ
設定データのリストア
ログアウト

DN1300 Setup Tool
F/W: 13.009.0E
S/N: 1099990101
製造年月: 02/2011

ユニット設定

ファームウェアバージョン	13.009.0E
MAC	00:A0:66:80:23:F3
説明	
IPアドレス	192 . 168 . 1 . 73
サブネット	255 . 255 . 255 . 0
ゲートウェイ	192 . 168 . 1 . 2
SMTP Server	0 . 0 . 0 . 0
Time Server	0 . 0 . 0 . 0
タイムゾーン	UTC+9 JST, KST, YAKT 東京、ソウル、ヤクーツク
メール送信先の SMTPポート	25 (初期値=25)

POP before SMTP 認証

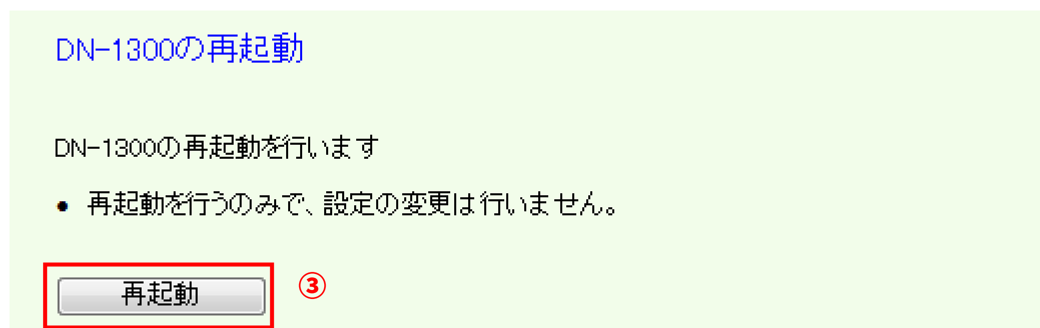
メール送信先の POP3ポート	110 (初期値=110)
POP3 ログイン ID	
POP3 ログインパスワード	
POP3 ログインパスワード(確認)	

モニタ間隔	0.25 分
オートリフレッシュ	10 秒 間隔でモニタ表示をリフレッシュします
オートログアウト	15 分 間無操作の時、ログアウトしてモニタ表示画面に戻ります
応答確認回数	2 回 応答を確認後異常と判断します
アラーム解除方法	◉自動 ○手動
アラーム解除ボタン	◉モード1 ○モード2

☑ RSH/SNMP モード（コマンド動作専用、監視機能無効） ①

設定　キャンセル

③ DN-1300 **再起動ページの再起動ボタンを押します。**
「処理を実行しますか？」のポップアップメッセージが表示されるので「OK**」を押します。**



④ **「再起動中です」の表示になりますので、再起動が終わるまで待ちます。**（2〜3 **分**）



⑤ **モニタ表示画面になります。画面上部に"**RSH/SNMP **モード"が表示されます。**
以上で RSH/SNMP **モードの設定は完了です。**



RSH/SNMP **モードをオフに戻す場合は、手順①で** RSH/SNMP **モードのチェックをオフにして設定し手順②〜④の再起動を同様に行います。**RSH/SNMP **モードオフ時は上記⑤のモード表示は出ません。**

7.2. 警戒表示設定

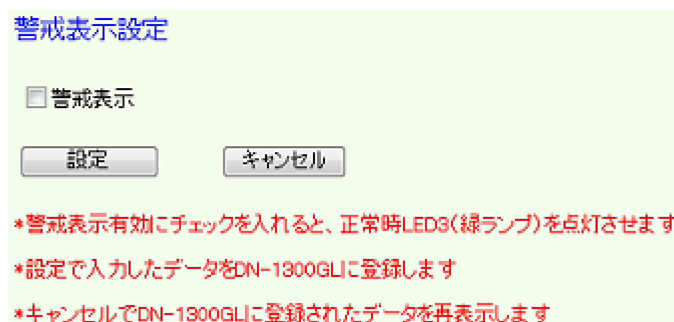


図12 警戒表示設定（**DN-1300GL-5L または DN-1300GL-3L**）

有効にチェックを入れると正常時に LED3(緑)を点灯させます。これにより、現在異常がないことを表します。異常を検知すると LED3(緑)は消灯します。

「設定」ボタンクリックで選択したデータが本製品に登録されます。「キャンセル」で現在選択されているデータが再表示されます。

7.3. モニタ設定

7.3.1. ネットワーク

ネットワーク監視を行うデバイスを設定するページです。

自動サーチ機能により、デバイスの自動抽出を行う場合は、「デバイスサーチ」をクリックしてください。デバイスサーチの詳細は次ページを参照してください。

モニタ設定(ネットワーク)

デバイスサーチ

	監視対象	監視有効	説明	
デバイス 1	192 . 168 . 1 . 101	☑	DB server 1	テスト実行 アクション設定へ
デバイス 2	192 . 168 . 1 . 102	☑	DB server 2	テスト実行 アクション設定へ
デバイス 3	192 . 168 . 1 . 3	☑	DHCP server 1	テスト実行 アクション設定へ
デバイス 4	192 . 168 . 1 . 4	☑	DHCP server 2	テスト実行 アクション設定へ
デバイス 5	192 . 168 . 1 . 111	☑	File server 1	テスト実行 アクション設定へ
デバイス 6	192 . 168 . 1 . 112	☑	File server 2	テスト実行 アクション設定へ
デバイス 7	192 . 168 . 1 . 10	☑	無線ルータ	テスト実行 アクション設定へ
デバイス 8	192 . 168 . 1 . 20	☑	printer 1	テスト実行 アクション設定へ
デバイス 9	192 . 168 . 1 . 21	☑	printer 2	テスト実行 アクション設定へ
デバイス 10	192 . 168 . 1 . 22	☑	printer 3	テスト実行 アクション設定へ

設定　キャンセル

デバイスサーチ

(1) 2

*設定で入力したデータをDN-1300GLに登録します

*キャンセルでDN-1300GLに登録されたデータを再表示します

図13 モニタ設定(ネットワーク)

監視対象:
監視するネットワーク・デバイスの IP アドレスを登録します。

監視有効:
チェックを入れると監視を行います。

説明:
デバイスの説明です。(半角 31 文字以内)

テスト実行:
登録した IP アドレスの通信テストを行います。(設定しないとテストは実行できません。)

「設定」ボタンクリックで入力したデータが本製品に登録されます。「キャンセル」で現在登録されているデータが再表示されます。
工場出荷時の状態は IP アドレスが 0、他は全て空欄です。

本製品からデータを削除したい場合は、IP アドレスに 0 を登録してください。

ここではデバイス 1〜10 の設定が行えます。デバイス 11〜20 の設定を行うには、画面下方のリンク「(1) 2」の部分で、「2」をクリックしてください。デバイス 11〜20 の設定画面に切り替わります。

【デバイスサーチ】

自動サーチ機能により、通信可能なデバイスの自動抽出が可能です。
「デバイスサーチ」をクリックするとページが表示されます。
「Search」ボタンをクリックすると、全ての通信可能なデバイスを抽出し、表示します。サーチ処理には 1 セグメントで 30 分程時間がかかる場合がありますので、ご注意ください。監視する IP アドレスが事前にわかっている場合は、モニタ設定ページで直接入力を行った方が効率的です。
本製品と別のネットワークのサーチを行う場合はサーチ範囲（IP アドレスの 1、2、3 オクテット）を変更し、再度サーチを開始してください。

デバイスサーチ

192 . 168 . 1 .* Search

監視対象IPアドレス		監視有効
IPアドレス 1	192.168.1.10	☑
IPアドレス 2	192.168.1.11	☐
IPアドレス 3	192.168.1.12	☑
IPアドレス 4	192.168.1.15	☑
IPアドレス 5	192.168.1.18	☑
IPアドレス 6	192.168.1.20	☑
IPアドレス 7	192.168.1.21	☑
IPアドレス 8	192.168.1.22	☑
IPアドレス 9	192.168.1.25	☐
IPアドレス 10	192.168.1.27	☐

設定

図14 デバイスサーチ

デバイスサーチが完了すると、左の図のように一覧が表示されます。（左の図は 10 個のデバイスが発見された例です。実際には最大 254 個のデバイスが表示されます。）

表示されたデバイスを本製品の監視対象にする場合は、「監視有効」にチェックを入れ、「設定」ボタンを押してください。選択したデータが監視有効の状態で本製品に登録されます。

異なるネットワークのサーチを行う場合は、サーチ範囲を変更し、再度「サーチ開始」を行ってください。
あとは最初のサーチと同じ操作をします。

ここで選択できるのは、既に登録されたデータを含め 20 件以内です。20 件を超える場合、エラーになります。既に登録されたデータとは、モニタ設定ページで IP アドレスが全て 0 以外のものを指します。

デバイスサーチには時間がかかります。ご注意ください

7.3.2. アクション設定

【アクション一覧】

アクション一覧（トラップ）

トラップ 1	有効	警報	LED1			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ1		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 2	有効	警報	LED2			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ2		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 3	有効	警報	LED3			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ3		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 4	有効	警報	LED1			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ4		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 5	有効	警報	LED2			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ5		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 6	有効	警報	LED3			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ6		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 7	有効	警報	LED1 LED2			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ7		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 8	有効	警報	LED1 LED3			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ8		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 9	有効	警報	LED1 LED2 LED3			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ9		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 10	有効	警報	LED1 LED2 LED3			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	
SNMPトラップ10		異常時コマンド:	無効	回復時コマンド:	無効	アクション設定へ
トラップ 11	有効	警報	LED1 LED2			
		メール送信:	無効	メッセージ送信:	無効	
192.168.1.54		SNMPトラップ送信:	無効	APC連携:	無効	

図15 アクション一覧

登録されているネットワーク及び SNMP トラップ、外部信号モニタのアクションを一覧表示するページです。

【アクションの重複について】

異なるモニタで同時に異常が検知されている場合、アラーム解除方法が自動では、全ての異常が回復された時にアラームが OFF となります。また同時にアラームが ON になっている状態で、同じ警報装置（ランプ･ブザー）に違うアクション（点灯･点滅／連続音･断続音）を設定していた場合、ランプは点滅、ブザーは連続が優先されます。

【アクション設定】

モニタ設定で登録した監視対象のデバイス（最大 20 ノード）、SNMP トラップ（最大 20 組）、ALARM STOP ボタンに対し、異常／回復検知時のアクションを設定するページです。

アクション設定

デバイス 1	isahome
警報	5色LED灯 赤 黄 青 緑 白 ブザー 点滅 連続音 点灯 断続音 テスト 実行
メール送信	有効
メッセージ送信	有効
SNMPトラップ通知	有効
異常時コマンド実行	有効 実行
回復時コマンド実行	有効 実行

設定　キャンセル

*設定で入力したデータをDN-1300GLに登録します

*キャンセルでDN-1300GLに登録されたデータを再表示します

*警戒表示が有効の場合、異常検知で緑LEDは点灯しません

図16 アクション設定（DN-1300GL-5L の場合）

※ **警報設定はモデルにより警報項目が変化します。**

※ **警戒表示を有効にしている場合、異常検知で LED3(緑)は点灯しません。警戒表示に関しては、「7.2警戒表示設定」を参照してください。**

※ ALARM STOP **ボタンのアクションにランプ／ブザー設定は行えません。**

項目名		説明
警報	上段	接続している警報装置が表示されます。
	下段	有効にするアクションにチェックを入れてください。ブザー音はラジオボタンで連続または断続を選択します。工場出荷時はランプ点灯、ブザー断続音です。
テスト		「実行」ボタンを押すと本製品が数秒間アラーム ON の状態になり、設定した警報のテストができます。
メール送信		有効にチェックを入れると、異常検知時に設定した通知機能が働きます。詳細は8章を参照してください。
メッセージ送信		
SNMP トラップ通知		
異常時コマンド実行 回復時コマンド実行		有効にチェックを入れると、登録したリモートシェルコマンド、または snmpset コマンドを実行します。運用前にテストボタンで確認を行ってください。 複数コマンドを登録する場合は";"（セミコロン）で区切ってください（350 文字以内）。 注）ALARM STOP ボタンのアクション設定では、ボタン押下時、ボタン解放時に実行したいコマンドを登録します。 ボタン押下時：「異常時コマンド実行」内に登録されたコマンドを実行 ボタン解放時：「回復時コマンド実行」内に登録されたコマンドを実行

注意

複数のネットワークデバイスを監視している場合、以下の条件を満たすとランプ／ブザーが再動作します。

・複数のネットワークデバイスにそれぞれランプ／ブザーアクションを設定している。
・2 つ以上のネットワークデバイス異常検知によりランプ／ブザーが動作した。
・アラーム解除操作でランプやブザーを停止させた。
・あるネットワークデバイスの回復を検知したが、まだ異常状態のデバイスが存在する。

【異常時コマンド実行／回復時コマンド実行　応用例】

他の DN-1300GL との組合せにより、DN-1300GL で検知した異常を別の部屋に設置した DN-1300GL に知らせることができます。

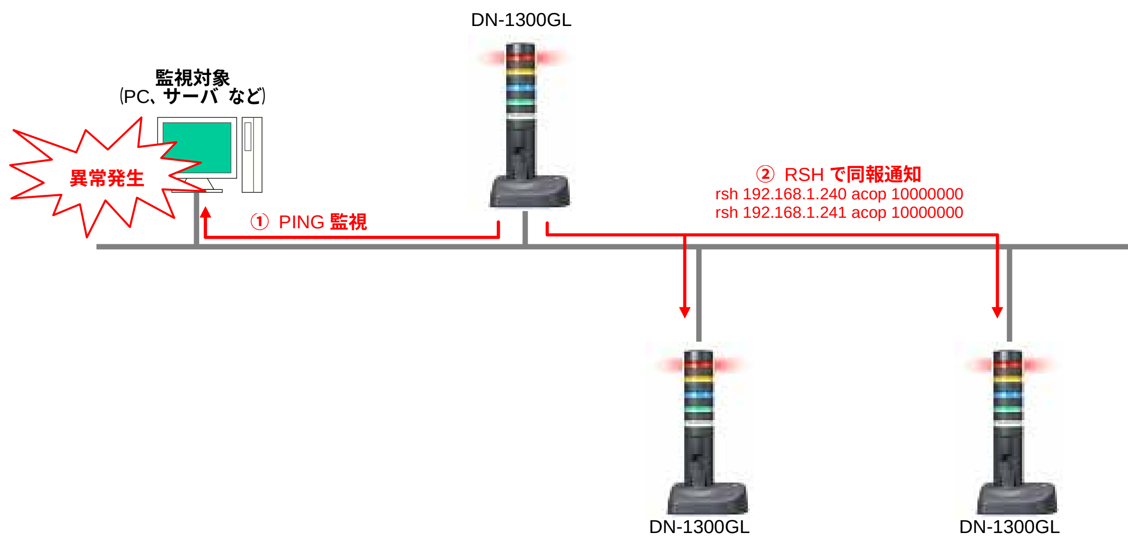


図17 応用例

① DN-1300GL でネットワーク監視。
② 異常を検知したら rsh を利用して、別の部屋に設置してある DN-1300GL に異常発生を通知
DN-1300GL の IP アドレスを　192.168.1.240　とした場合の例
異常時コマンド登録　rsh 192.168.1.240 ACOP 10000000　（赤ランプ点灯）
回復時コマンド登録　rsh 192.168.1.240 ALOF　（ランプ／ブザー停止）

7.3.3. トラップ

SNMP トラップ受信をトリガとしたアクションを実行するための、SNMP トラップを設定するページです。

※ 図はトラップ 6-10 の設定画面です

モニタ設定(トラップ)

トラップ(1-5) | トラップ(6-10) | トラップ(11-15) | トラップ(16-20)

トラップ	監視	OID	OIDmode	送信元	説明	
トラップ 6	☑ 異常時 / 回復時		Specific / Specific	192 . 168 . 1 . 59	SNMPトラップ6	アクション設定へ
	variable-bindings 監視: 有効	異常時: (なし) / 回復時: (なし)	Value-Type: 異常時: OBJECT_ID / 回復時: OBJECT_ID	Value: 異常時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.10416 / 回復時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.99999		詳細設定へ
トラップ 7	☑ 異常時 / 回復時		Specific / Specific	192 . 168 . 1 . 59	SNMPトラップ7	アクション設定へ
	variable-bindings 監視: 有効	異常時: (なし) / 回復時: (なし)	Value-Type: 異常時: OBJECT_ID / 回復時: OBJECT_ID	Value: 異常時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.10417 / 回復時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.99999		詳細設定へ
トラップ 8	☑ 異常時 / 回復時		Specific / Specific	192 . 168 . 1 . 59	SNMPトラップ8	アクション設定へ
	variable-bindings 監視: 有効	異常時: (なし) / 回復時: (なし)	Value-Type: 異常時: OBJECT_ID / 回復時: OBJECT_ID	Value: 異常時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.10418 / 回復時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.99999		詳細設定へ
トラップ 9	☑ 異常時 / 回復時		Specific / Specific	192 . 168 . 1 . 59	SNMPトラップ9	アクション設定へ
	variable-bindings 監視: 有効	異常時: (なし) / 回復時: (なし)	Value-Type: 異常時: OBJECT_ID / 回復時: OBJECT_ID	Value: 異常時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.10419 / 回復時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.99999		詳細設定へ
トラップ 10	☑ 異常時 / 回復時		Specific / Specific	192 . 168 . 1 . 59	SNMPトラップ10	アクション設定へ
	variable-bindings 監視: 有効	異常時: (なし) / 回復時: (なし)	Value-Type: 異常時: OBJECT_ID / 回復時: OBJECT_ID	Value: 異常時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.10420 / 回復時: .1.3.6.1.4.1.666.90.18.1.1.2.0.99999		詳細設定へ

トラップ(1-5) | トラップ(6-10) | トラップ(11-15) | トラップ(16-20)

[設定] [キャンセル]

＊設定で入力したデータをDN-1300GLに登録します

＊キャンセルでDN-1300GLに登録されたデータを再表示します

図18 モニタ設定(トラップ)

項目名		説明	工場出荷時設定
監視		チェックを入れるとSNMPトラップ受信によりアクション[4]を実行します。	無効
OID	異常時	登録された OID の SNMP トラップを受信した時のみアクションを実行します。OID を識別する必要のない場合は空欄にしてください。	空欄
	回復時	登録された OID の SNMP トラップを受信した時、自動的にアクションを停止（ランプ消灯･ブザー停止等を実行）します。OID を識別する必要のない場合は空欄にしてください※。	空欄
OID mode	異常時	異常時 OID について、 specific trap type、generic trap type の どちらを判定するかを表示します。 設定は“詳細設定”のページ（下記参照）で行います。	Specific
	回復時	回復時 OID について、 specific trap type、generic trap type の どちらを判定するかを表示します。 設定は“詳細設定”のページ（下記参照）で行います。	Specific
送信元		登録された IP アドレスから送信された SNMP トラップを受信した時のみアクションを実行します。送信元の IP アドレスを識別する必要のない場合は 0.0.0.0 を入力してください。	0.0.0.0
説明		SNMP トラップの説明です。 （半角英数字と半角記号 7 種 ”-_@:/()” 31 文字以内 または全角 15 文字以内）	空欄
Variable-bindings 監視		variable-bindings の設定状況を表示します。 設定は“詳細設定”のページ（下記参照）で行うことができます。	無効

※ OID や IP アドレスを識別する必要がない場合、トラップ 1～20 のいずれか 1 つの「監視有効」にチェックを入れてください。OID は空欄、IP アドレスは 0.0.0.0 である事を確認してください。

※ IP アドレスの他、Enterprise(.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.1 等)と specific trap type、generic trap type を判定します。specific trap type、generic trap type のどちらを判定するかは OIDmode の設定によります。

※ 異常時 OID、回復時 OID に記述する Enterprise はルートから記述してください。(“.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.1”のように、先頭にピリオドを付加してください)

※ 回復時 OID のみ設定（異常時 OID を空欄）することはできません。異常時 OID が空欄の場合は、回復時 OID も空欄にしてください。

※ トラップ監視設定で OID を異常･回復ともに空欄、variable-bindings 監視が無効の場合、トラップを受信するごとに異常検知と回復検知が切り替わります。この場合「ユニット設定」の「アラーム解除方法」は「手動」を選択してください。

※ トラップ監視設定で OID を異常のみ登録した場合、登録した OID 以外のトラップを受信すると回復検知となります。回復検知をさせない場合は、存在しない OID（例 .0.0）を回復時 OID に登録してください。

※ variable-bindings 監視が有効になっている場合は、異常時 OID と回復時 OID を同一に設定すること

[4] ランプ点灯、ブザー鳴動、メール送信等があります。詳細は7.3.2章アクション設定を参照してください。

ができます。variable-bindings 監視が無効になっている場合は、OIDmode が異ならないかぎり、異常時 OID と回復時 OID を同一に設定することはできません。

※ トラップの異常検知状態（モニタ表示画面の警告（赤）状態）は、トラップによる回復検知の他に以下の操作で解除できます。

① WEB のアラーム解除実行　② ALARM STOP ボタン押下　③ ALOF コマンド

「設定」ボタンクリックで入力したデータが本製品に登録されます。「キャンセル」で現在登録されているデータが再表示されます。

【詳細設定】

個々の SNMP トラップの詳細設定を行うページです。

詳細設定(トラップ6)

監視 ☑

異常時OID .1.3.6.1.4.1.1333.1.10.1.1 ◉ Specific ○ Generic

回復時OID .1.3.6.1.4.1.1333.1.10.1.2 ◉ Specific ○ Generic

送信元 192 . 168 . 1 . 1

説明 ルータB

variable-bindings 監視 ☑ 有効

異常時 OID(vb) .1.3.6.1.4.1.1333.1.1.1.1

異常時 Type INTEGER

異常時 Value 101

回復時 OID(vb) .1.3.6.1.4.1.1333.1.1.1.1

回復時 Type INTEGER

回復時 Value 102

設定 キャンセル

*設定で入力したデータをDN-1300GLに登録します

*キャンセルでDN-1300GLに登録されたデータを再表示します

図19 詳細設定(トラップ)

項目名		説明	工場出荷時設定
監視		チェックを入れると SNMP トラップ受信によりアクションを実行します。	無効
OID	異常時	登録された OID の SNMP トラップを受信した時のみアクションを実行します。OID を識別する必要のない場合は空欄にしてください。	空欄
	回復時	登録された OID の SNMP トラップを受信した時、自動的にアクションを停止(ランプ消灯・ブザー停止等を実行)します。OID を識別する必要のない場合は空欄にしてください。	空欄
OID mode	異常時	異常時 OID について、 specific trap type、generic trap type の どちらを判定するかを設定します。 詳細は[設定例]を参考にしてください。	Specific
	回復時	回復時 OID について、 specific trap type、generic trap type の どちらを判定するかを設定します。 詳細は[設定例]を参考にしてください。	Specific
送信元		登録された IP アドレスから送信された SNMP トラップを受信した時のみアクションを実行します。送信元の IP アドレスを識別する必要のない場合は 0.0.0.0 を入力してください。	0.0.0.0
説明		SNMP トラップの説明です。 (半角英数字と半角記号 7 種 "-_@:/()" 31 文字以内 または全角 15 文字以内)	空欄

項目名	説明	工場出荷時設定
Variable-bindings 監視	チェックを入れると variable-bindings 監視が有効になります。	無効
異常時 OID (vb)	異常時 OID を指定します。(半角数字とピリオドで 58 文字以内)	空欄
異常時 Type	異常時 Value の型を指定します。((ANY)、INTEGER、OBJECT_ID) (ANY)を選択した場合、Type の判定を行いません。	(ANY)
異常時 Value	異常時 Value を設定します。(58 文字以内) (ANY):半角英数字と _ @ - . : / ( ) INTEGER:半角のみ。10 進数 0〜127 OBJECT_ID:半角数字とピリオド	空欄
回復時 OID (vb)	回復時 OID を指定します。(半角数字とピリオドで 58 文字以内)	空欄
回復時 Type	回復時 Value の型を指定します。((ANY)、INTEGER、OBJECT_ID) (ANY)を選択した場合、Type の判定を行いません。	(ANY)
回復時 Value	回復時 Value の値を設定します。(58 文字以内) (ANY):半角英数字と _ @ - . : / ( ) INTEGER:半角のみ。10 進数 0〜127 OBJECT_ID:半角数字とピリオド	空欄

※ 異常時 OID、回復時 OID に記述する Enterprise はルートから記述してください。
(".1.3.6.1.4.1.1333.1.2.1"のように、先頭にピリオドを付加してください)

※ OID(vb)、Type、Value には、異常時・回復時共に 1 件ずつ登録可能です。
代表的な variable-bindings を設定してください。

※ 異常時と回復時の OID、OID(vb)、Type、Value が完全に同一の設定はできません。異常時トラップと回復時トラップを区別する必要があります。

【設定例】

異常時 OID、回復時 OID の設定例です。

snmptrap 例 1)

enterprise　　　　：.1.3.6.1.4.1.3.1.1
generic trap type ：2
specific trap type：0

◆ specific trap type を判定したい場合、OIDmode を"**Specific**"に設定し、OID を **enterprise.*specifictraptype*** 形式で設定します。

例)

.1.3.6.1.4.1.3.1.1.*0*

◆ generic trap type を判定したい場合、OIDmode を"**Generic**"に設定し、OID を **enterprise.*generictraptype*** 形式で設定します。

例)

.1.3.6.1.4.1.3.1.1.*2*

7.3.4.　ALARM STOP

ALARM STOP ボタンを監視し、ボタンが押されたときにアクションを実行するように設定することができます。



図20 ALARM STOP ボタン

項目名	説明	工場出荷時設定
監視有効	チェックを入れると監視を行います。	無効

ALARM STOP ボタンのアクションを使用し、かつ、ALARM STOP ボタン押下によるランプ･ブザーのアラーム解除を同時に行う場合、短時間のボタン押下では ALARM STOP ボタンのアクションは実行されますが、ランプ･ブザーのアラーム解除が実行されない場合があります。アクション実行とアラーム解除を同時に行うためには、ALARM STOP ボタンをしっかり押し、**アラーム解除されたことを確認してからボタンを放す**ようにしてください。

8. アラームの解除

アラームの解除方法は以下の 3 点です。

① **本ツールのメニュー「アラーム解除」をクリックします。強制アラーム解除を行うためのページが表示されます。**

「実行」ボタンで全アラームを強制解除します。

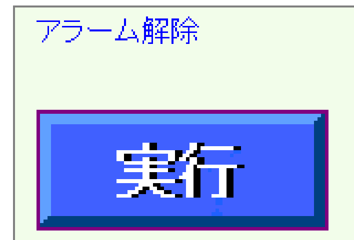


図21 アラーム解除ページ

② **本体の** ALARM STOP **ボタンにて全アラームを強制解除します。アラームが停止するまでボタンを押してください（約** 2 **秒）。詳細は**4.2**章を参照してください。**

③ ALOF **コマンドを実行すると全アラームを強制解除します（「**12.1 **リモートシェルコマンドを参照してください）。**

9. システム設定

9.1. 電子メール設定

異常･回復を検知した時に、電子メールによる通知を行うための設定用ページです。また、新規イベントログが 190 レコードを超えた時、CSV 形式ファイルの添付ファイルとして、ログファイル送信先メールアドレスに自動送信されます。イベントログについては P48「10 イベントログ」を参照してください。

電子メール設定

Fromアドレス：

送信先メールアドレス
メンバ 1： テスト送信
メンバ 2： テスト送信
メンバ 3： テスト送信
メンバ 4： テスト送信
メンバ 5： テスト送信

署名登録
ライン1：
ライン2：
ライン3：
ライン4：
ライン5：
ライン6：

ログファイル送信先メールアドレス
テスト送信

設定 キャンセル

*設定で入力したデータをDN-1300GLに登録します
*キャンセルでDN-1300GLに登録されたデータを再表示します

図22 電子メール設定

「設定」ボタンクリックで入力したデータが本製品に登録されます。
「キャンセル」で現在登録されているデータが再表示されます。

「テスト送信」をクリックすると、本ページで入力したデータ全てを本製品に登録後、クリックした箇所のアドレスに対してテストメールが送信されます。

イベントログはログファイル送信先メールアドレスを設定した場合のみ送信されます。

メールアドレスの文字数制限は半角英数字と半角記号”@-_.” 63 文字です。

署名登録の文字数制限は、半角で 31 文字×6 行です。半角文字は英数字と以下の文字のみが受付けられます。

-	_	@	.	:	/	(	)	
ハイフン	アンダースコア	アットマーク	ピリオド	コロン	スラッシュ	丸カッコ(開く)	丸カッコ(閉じる)	スペース



図 23 テスト送信メール

Microsoft Outlook Express **で受信したテストメールです。**

本ページで登録したアドレスにメールを送信する／しないの設定は、P31「7.3.2 アクション設定」のメール送信のチェックボックスで指定します。チェックを入れるとメールを送信します。

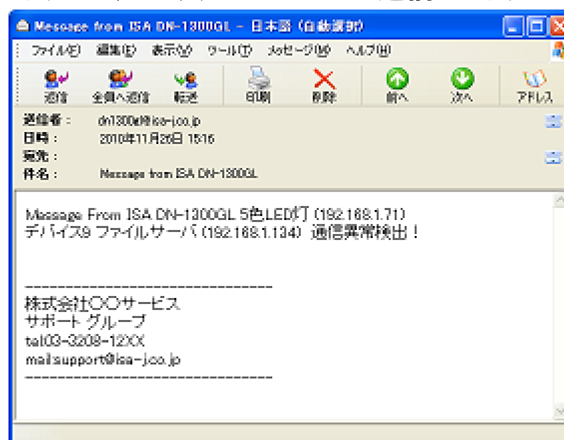


図 24 イベント通知メール

Microsoft Outlook Express で受信した通知メール
ネットワーク･モニタに登録されたデバイスで通信異常を検出した場合の例

受信･送信アドレス等は架空のものです。また固定メッセージは予告なく変更される場合があります。

9.2. メッセージ設定

異常･回復を検知した時に IP Messenger による通知を行うための設定用ページです。

メッセージ設定

IPアドレス 1:	192	168	1	210	テスト送信
IPアドレス 2:	192	168	1	101	テスト送信
IPアドレス 3:	192	168	1	50	テスト送信
IPアドレス 4:	0	0	0	0	テスト送信
IPアドレス 5:	0	0	0	0	テスト送信

設定　キャンセル

図 25 メッセージ設定ページ

「設定」ボタンクリックで入力したデータが本製品に登録されます。
「キャンセル」で現在登録されているデータが再表示されます。
「テスト送信」をクリックすると、本ページで入力したデータ全てを本製品に登録後、テストメッセージを送信します。

本ページで登録したコンピュータにメッセージを送信する･しないの設定は、P31「7.3.2 アクション設定」のメッセージ送信のチェックボックスで指定します。チェックを入れるとメッセージを送信します。

メッセージの内容（例）

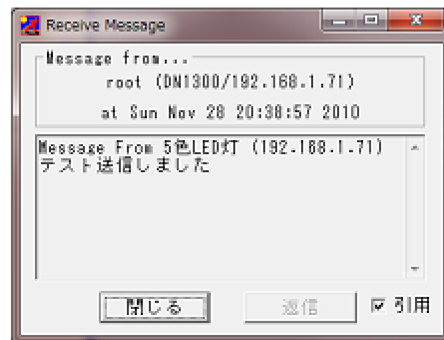


図26 テストメッセージ

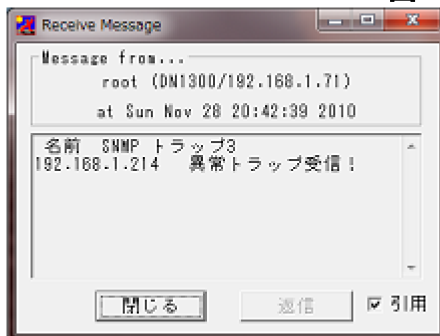


図27 異常検知時メッセージ

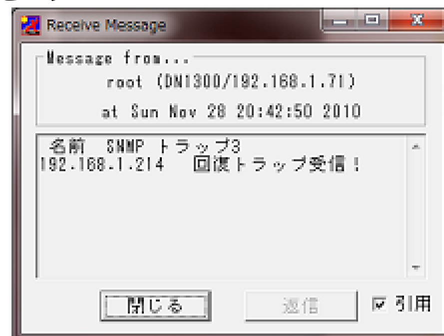


図28 回復検出時メッセージ

※ メッセージを受けるコンピュータに IP を利用するメッセンジャー・ソフトウェアが必要です。

9.3. SNMP 設定

異常･回復を検知した時に SNMP トラップによる通知先設定と SNMP マネージャによる Read/Write の許可属性の設定を行うためのページです。

SNMP設定

SNMPトラップ通知先

IP アドレス 1: 0 . 0 . 0 . 0 コミュニティ名 : public テスト実行

IP アドレス 2: 0 . 0 . 0 . 0 コミュニティ名 : public テスト実行

IP アドレス 3: 0 . 0 . 0 . 0 コミュニティ名 : public テスト実行

IP アドレス 4: 0 . 0 . 0 . 0 コミュニティ名 : public テスト実行

IP アドレス 5: 0 . 0 . 0 . 0 コミュニティ名 : public テスト実行

詳細トラップ トラップオフセット 0

SNMPマネージャとRead/Write許可属性の設定

IPアドレス	Read	Write	SNMPコミュニティ名
0 . 0 . 0 . 0	☐	☐	public
0 . 0 . 0 . 0	☐	☐	public
0 . 0 . 0 . 0	☐	☐	public
0 . 0 . 0 . 0	☐	☐	public
0 . 0 . 0 . 0	☐	☐	public

設定 キャンセル

図29 SNMP 設定ページ

【SNMP トラップ通知先】

本製品の SNMP トラップ (AlarmOn または AlarmOff) を登録した IP アドレスの SNMP マネージャに通知します。また、それぞれの通知先ごとに「コミュニティ名」を設定できます。工場出荷状態では、全て"public"です。

「詳細トラップ」にチェックを入れると、どのモニタで異常/回復が発生したかがわかります (工場出荷時：チェックなし) 。チェックを入れない場合、SNMP トラップはネットワークモニタの異常/回復、外部入力の異常/回復、SNMP トラップ監視の異常/回復の 6 種です。

「トラップオフセット」に 0 から 32700 までの数値を入力すると、複数の DN-1300GL をご利用の場合、どの装置からの SNMP トラップなのか判断する事ができます。実際に通知される値は、付録 D (SNMP MIB 一覧) の SNMP トラップ一覧に記載されています「固有番号」に「トラップオフセット」で設定した数値を足した値になります。

例えば「トラップオフセット」に 1000 を設定した場合、“外部入力チャンネル 1 異常”発生時、SNMP マネージャには 1006 (外部入力チャンネル 1 異常 = 固有番号 6) を送信します。

DN-1300GL 起動時に SNMP トラップ通知先にコールドスタートトラップ(.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.200)を送信します。「トラップオフセット」の設定は無視されます。

【SNMP マネージャと Read/Write 許可属性】

本製品を SNMP によりコントロールするための設定です。Read にチェックを入れると SNMP により本製品の状態を読み出せます。Write にチェックを入れると SNMP によりアラームの ON･OFF が可能になります。SNMP コミュニティ名は半角英数字 31 文字以内で登録してください。工場出荷時の設定は public です。

「設定」ボタンクリックで入力したデータが本製品に登録されます。
「キャンセル」で現在登録されているデータが再表示されます。
「テスト実行」をクリックすると、本ページで入力したデータ全てを本製品に登録後、テストトラップを送信します。

本ページで登録した SNMP マネージャに SNMP トラップを送るか、送らないかはアクション設定(7.3.2章) SNMP トラップ通知のチェックボックスで指定します。チェックを入れると SNMP トラップを送信します。

本製品の SNMP トラップに関しては付録 D (SNMP MIB 一覧)を参照してください。

9.4. 管理ユーザ設定

本ツールにログインするための管理ユーザとパスワードを設定するページです。

管理ユーザ設定

新しいユーザ名: John
新しいパスワード: ******
新しいパスワード再入力: ******

設定 キャンセル

図30 管理ユーザ設定ページ

「設定」ボタンクリックで入力したデータが本製品に登録されます。

「キャンセル」で入力したデータがクリアされます。パスワードは表示されません。

工場出荷時の設定はユーザ名・パスワードともに"DN1300"です。

ユーザ名の文字数制限は半角で 16 文字以内です。
大文字・小文字は区別します。

【パスワード文字制限に関して】
パスワードの文字数制限は半角で 8 文字以内です。半角文字は英数字と以下の文字のみが受け付けられます。大文字・小文字は区別します。

-	_	@	.	:	/	(	)	
ハイフン	アンダースコア	アットマーク	ピリオド	コロン	スラッシュ	丸カッコ(開く)	丸カッコ(閉じる)	スペース

登録したユーザ名・パスワードを忘れてしまった場合は、工場引取りにて設定内容(ユーザ名・パスワードのみ)を初期化する必要がありますのでご注意ください。(有償)
尚、設定データのバックアップ(11.4章参照)を行っていた場合は、バックアップファイルから設定内容が確認できますので、バックアップファイルを下記まで送付してください。 info@isa-j.co.jp

9.5. コマンドアクセス設定

本製品はリモートシェルにてアラーム ON・OFF 等のコントロールが可能です。この機能によって、表示装置

としてあらゆるアプリケーション等への組み込みが容易に行えます。代表的なものとしてはネットワーク管理ソフトウェアとの連携が挙げられます。ネットワーク管理ソフトウェアとの連携に関しては付録 A （ネットワーク管理ソフトウェアとの連携）を参照してください。

コマンドアクセス設定

ユーザ名: 1 root
ユーザ名: 2 Administrator
ユーザ名: 3 root
ユーザ名: 4 root
ユーザ名: 5 root

コマンドパスワード有効:
現在のパスワード:
新しいパスワード:
新しいパスワード再入力:

設定　キャンセル

図31 コマンドアクセス設定ページ

「設定」ボタンクリックで入力したデータが本製品に登録されます。「キャンセル」で現在登録されているデータが再表示されます。パスワードは表示されません。

パスワードを有効にする場合、「コマンドパスワード有効」にチェックを入れ、「現在のパスワード」と「新しいパスワード」を 2 回入力してください。スペースは使用できません。

パスワードを有効から無効に変更する場合は、「コマンドパスワード有効」のチェックを外し、「現在のパスワード」だけを入力して「設定」ボタンを押してください。

このページではリモートシェルにて本製品にアクセス可能なログインユーザとコマンドパスワードを設定します。コマンドに関しては「12.1 リモートシェルコマンド」を参照してください。

工場出荷時の設定

ユーザ名	"root"と"Administrator"
パスワード機能	無効
パスワード	dn1300

ユーザ名・パスワードは半角英数字を使用してください。（大文字・小文字は区別します。）

ネットワーク管理ソフトウェアと連携させて、リモートシェルにて本製品の警報を出す場合は、ネットワーク管理ソフトウェアのユーザ名（アカウント名）を登録する必要があります。システムに root や Administrator でログインしていても、ネットワーク管理ソフトウェアからコマンドを実行すると、"SYSTEM"・"bin"等のユーザで実行される場合があります。

登録したコマンドパスワードを忘れてしまった場合は、設定を工場出荷時の状態に戻す必要があります。（11.3章参照）処理を実行する前に「設定データのバックアップ」を行えば、コマンドアクセス設定だけを工場出荷時の状態に戻す事ができます。
「設定データのバックアップ」→「設定を工場出荷時の状態に戻す」→「設定データのリストア」でコマンドアクセス設定以外を選択します。（11.4～11.5章参照）

9.6.　時刻設定

本製品へ現在の時刻を設定するページです。

時刻設定

DN-1300GL に設定する時刻を入力して下さい

2010 年 11 月 30 日 10 時 10 分

設定　キャンセル

*設定で入力したデータをDN-1300GLに登録します

*キャンセルでDN-1300GLに登録されたデータを再表示します

図32 時刻設定ページ

「設定」ボタンクリックで入力したデータが本製品に登録されます。「キャンセル」で現在登録されているデータが再表示されます。時刻は内蔵の電池で駆動させますので、電源を切っても、止まったり初期化される事はありません。

10. イベントログ

タイムスタンプ付きのイベントログを表示するページです。

	年月日	時刻	発生イベント
1)	2010-11-26	16:07:15 (UTC+9 JST, KST, YAKT)	リモートシェルアラーム解除 192.168.1.214
2)	2010-11-26	16:06:59 (UTC+9 JST, KST, YAKT)	ACOP 2xxxxxxx 192.168.1.214
3)	2010-11-26	15:51:24 (UTC+9 JST, KST, YAKT)	boot
4)	2010-11-26	15:41:25 (UTC+9 JST, KST, YAKT)	SNMP トラップ3 警報 Off 192.168.1.214
5)	2010-11-26	15:41:16 (UTC+9 JST, KST, YAKT)	SNMP トラップ3 警報 On 192.168.1.214

[イベントログクリア] [イベントログ保存 (CSV)]

図33 イベントログページ



図34 イベントログを保存

本製品で保存可能なログは最大で 200 **レコードです。これを越えると自動的に古い履歴から順に削除されます。**

イベント毎にフラッシュメモリへ書き込みますので、電源を切ってもログは消えません。

ハードディスク上にテキストで保存する場合は「イベントログ保存（CSV**）」ボタンをクリックしてください。** eventlog.csv **の名称でファイルが作成されますので、右クリックから操作を行ってください。**
Firefox **をご使用の場合、右クリックから「リンクに名前を付けて保存」を選択してください。**

「イベントログクリア」ボタンで、本製品に保存されているデータは全てクリアされます。

イベントログの内容

デバイス 1 （192.168.1.130） **警報** On/Off
SNMP **トラップ** 3 **警報** On/Off 192.168.1.133
ACOP 10000000 192.168.1.133
SNMP rly1 TurnOn
SNMP rly2 Blink
SNMP rly3 TurnOff
リモートシェルアラーム解除 192.168.1.133
スイッチによるアラーム解除
スイッチによるブザー解除
ツールによるアラーム解除
E-mail **送信失敗**
POP before SMTP **認証失敗**

デバイス番号・SNMP **トラップ番号・**IP **アドレス等は例です。**
固定の内容は予告なく変更される場合があります。

10.1. イベントログ自動メール送信機能

イベントログが190　レコードを超えると、電子メール設定でログファイル送信先メールアドレスに登録されている送信先に、CSV形式の添付ファイルとして、自動的にメール送信されます。
ログファイル送信先メールアドレスの登録がない場合、イベントログは送信されません。
この添付ファイルに含まれるイベントログは190 レコードです。
メール送信されたイベントログは削除されません。
メール未送信イベントログがさらに190　レコードを超えると、同様に、前回送信したログの次のレコードから190 レコード分が、メール送信されます。

電子メール設定については、P41「9.1　**電子メール設定」を参照してください。**

11. その他のメニュー

11.1. ファームウェア・アップデート

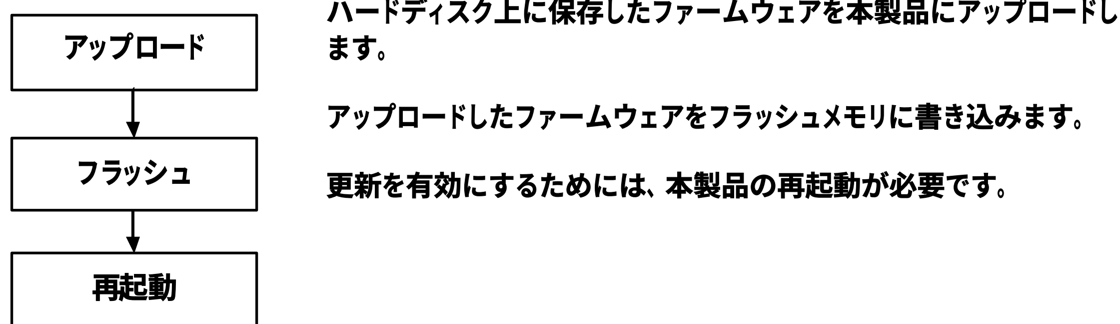
以下のサイトより最新のファームウェアがダウンロードできます。
各バージョンの詳細をご確認の上、ダウンロードを行ってください。

ダウンロードサイト： http://www.isa-j.co.jp/dn1300gl/

ファイルのアップロード中は本製品の電源を切らないでください。また本製品のネットワークケーブルを取りはずさないでください。
ファイルのアップロードが正常に終了せず、以降の動作に支障をきたす恐れがあります。

ファイルのフラッシュ中は本製品の電源を切らないでください。
ファイルのフラッシュが正常に終了せず、以降の動作に支障をきたす恐れがあります。

処理の流れ



ハードディスク上に保存したファームウェアを本製品にアップロードします。

アップロードしたファームウェアをフラッシュメモリに書き込みます。

更新を有効にするためには、本製品の再起動が必要です。

① **メニューよりファームウェア・アップデートをクリックします。**
② **「ファームウェアのアップデートを実行しますか」のメッセージボックスが表示されます。**
③ **「OK」をクリックするとアップデートのページが表示されます。**

本ダウンロードサイトは製品をご購入頂いたお客様のみに、本書にてご案内させて頂いております。無断でのリンク等はお断り致します。

ステップ 1:

ファームウェアファイルを本製品にアップロードします。
ファイルを指定して、「アップロード」ボタンをクリックしてください。

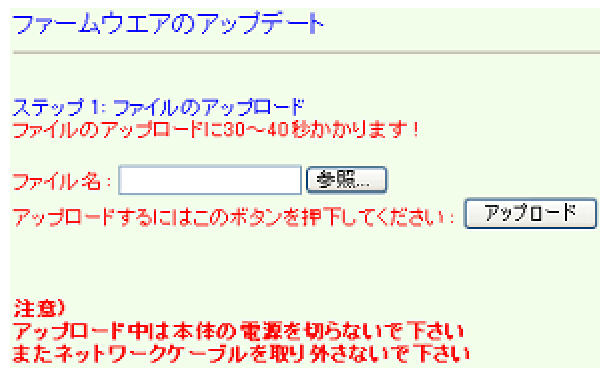


図35 ファームウェアアップデート
（ファイルのアップロード）

ステップ 2:

ファームウェアのフラッシュを行います。「フラッシュの実行」ボタンをクリックしてください。本処理には数分かかります。

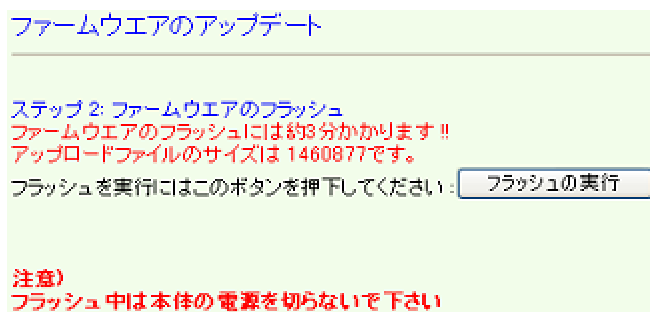


図36 ファームウェアアップデート
（ファームウェアのフラッシュ）

ステップ 3:

「リブート」ボタンをクリックして本体の再起動を行ってください。再起動後に更新したファームウェアが有効になります。

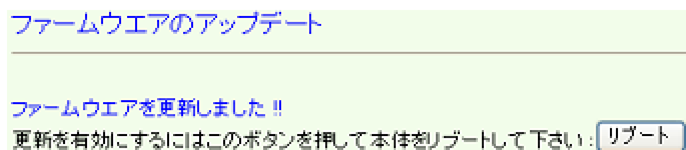


図37 ファームウェアアップデート
（更新完了）

※ **最新のファームウェアで追加された項目には工場出荷時の値が設定されます。**

※ **再起動には** 2～3 **分程時間がかかります。その間設定ページなどを操作することはできませんので、再起動が完了するまでお待ちください。**

11.2. DN-1300GL の再起動

本製品の再起動を行います。「再起動」ボタンをクリックし、処理を続行させてください。再起動を行うのみで、設定の変更は行いません。本体のリセットボタン押下操作と同じ機能です。

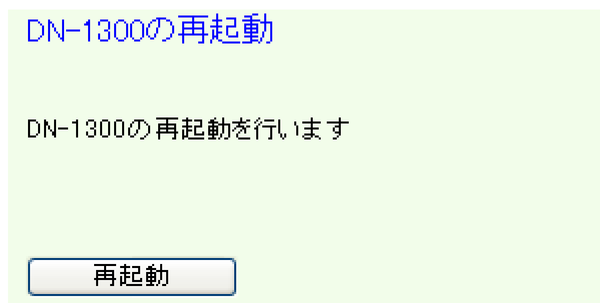


図38 DN-1300GL の再起動

※ 再起動には 2〜3 分程時間がかかります。その間設定ページなどを操作することはできませんので、再起動が完了するまでお待ちください。

11.3. 設定を工場出荷時の状態に戻す

本製品の設定を工場出荷時の状態に戻します。「工場出荷時の状態に戻す」ボタンをクリックし、処理を続行させてください。IP アドレス、サブネット、ゲートウェイ、管理ユーザ設定は初期化されません。

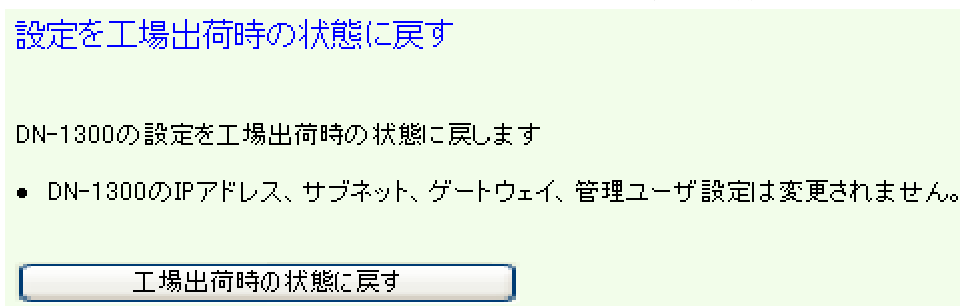


図39 設定を工場出荷時の状態に戻す

※ 再起動には 2〜3 分程時間がかかります。その間設定ページなどを操作することはできませんので、再起動が完了するまでお待ちください。

11.4. 設定データのバックアップ

本製品に設定したデータをバックアップします。

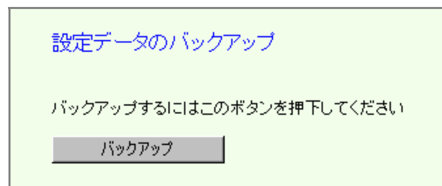


図40 設定データのバックアップ

画面上の「バックアップ」ボタンをクリックすると「処理を実行しますか？」と確認用メッセージボックスが表示されますので「OK」をクリックしてください。

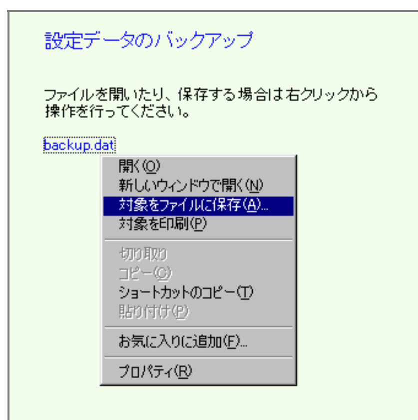


図41 設定データを保存

次の画面上の「backup.dat」を右クリックし「対象をファイルに保存」を選択すると設定データをバックアップできます。

設定変更後は本処理を行う事をお奨めします。

11.5. 設定データのリストア

前章で処理したバックアップファイルを本製品にリストアします。

設定データのリストア

ファイル名：C:¥WINDOWS¥ﾃﾞｽｸﾄ 参照...

リストアするにはこのボタンを押下してください：リストア

図42 設定データのリストア

「ファイル名」にバックアップファイル「backup.dat」を指定し「リストア」ボタンをクリックします。

設定データのリストア

基本設定

☐ユニット設定（IPアドレス、サブネット、ゲートウェイはリストアされません）

☐警戒表示設定

☐モニタ設定（ネットワーク）

☐モニタ設定（ALARM STOP）

☐モニタ設定（SNMP トラップ）

システム設定

☐電子メール設定

☐メッセージ設定

☐SNMP設定

☐イベントログ

リストア

図43 リストアする項目の選択

次の画面から、リストアしたいアイテムにチェックを入れ、「リストア」ボタンをクリックしてください。

IP アドレス、サブネット、ゲートウェイ、管理ユーザ設定はリストアできません。

注意

DN-1300GL **以外で作成したバックアップファイルではリストアできません。**

12. コマンドリファレンス

本製品ではリモートシェルコマンドと snmpset **コマンドを使用することができます。**

12.1. リモートシェルコマンド

リモートシェルコマンドとその概要を一覧表示します。

コマンド	意味	READ/WRITE
① ACOP	警報用同時出力コントロール	READ/WRITE
② ALOF	アラーム解除	WRITE
③ CKID	ユーザ名チェック	READ/WRITE
④ CKIP	ネットワーク監視状態	READ/WRITE
⑤ CKST	SNMP トラップ受信状態	READ
⑥ HELP	ヘルプ	READ
⑦ LGPW	コマンドパスワード	READ/WRITE
⑧ PWST	パスワードステータス	READ/WRITE
⑨ RDLP	ランプコード取得	READ
⑩ RDMN	モデル名取得	READ
⑪ RDPD	製造年月取得	READ
⑫ RDSN	シリアル番号取得	READ
⑬ UTID	ユニット ID	READ
⑭ VERN	ファームウェア情報	READ

コマンド入力方法は以下のとおりです。
リモートシェルコマンドの例として、rsh **コマンドを使用した場合を記述します。**
（HP-UX **では** remsh **コマンドを使用します。**）

rsh IP_Address Command [Parameter] [Option] [-p password]

IP_Address **部には本製品の** IP **アドレスを入力します。**

① 警報用同時出力コントロール： ACOP

警報装置の出力コントロール及び現在状態の読出し

ACOP [(d1)(d2)(d3)(d4)(d5)(d6)(d7)(d8)] [-p password]

モデル	d1	d2	d3	d4	d5	d6	d7	d8
DN-1300GL-5Lxx	赤	黄	緑	ブザー連続音(PPPP…)	ブザー断続音(P-, P-, P-, …)	青	白	未使用
DN-1300GL-3Lxx	赤	黄	緑	ブザー連続音(PPPP…)	ブザー断続音(P-, P-, P-, …)	未使用	未使用	未使用

内容： 0=OFF（**オープン**） 1=ON（**クローズ**） 2=Blink（2 **秒周期オープン・クローズ断続**）
3=QuickBlink(1 **秒周期オープン・クローズ断続**)
X=**状態保持**（X **は大文字・小文字を区別しません**）

- **ブザー連続音とブザー断続音を同時に** ON **または** Blink **させた場合、ブザー連続音が鳴動し、ブザー断続音は鳴動しません。**
- **「未使用」には** 0 **または** X **を指定してください。**

例 1 （5L **の場合**） **赤を点灯させ、青を点滅にします。他は変更しません。**

rsh 192.168.1.211 ACOP 1xxxx2xx [-p password]

例 2 （3L **の場合**） **黄を点灯させ、緑を点滅にします。他は変更しません。**

rsh 192.168.1.211 ACOP x12xxxxx [-p password]

例 3 **現在の状態を確認します。**

rsh 192.168.1.211 ACOP [-p password]

返値： 02010000 （**黄色点滅・ブザー連続音鳴動**）

② アラーム解除： ALOF

強制的にランプ・ブザー等を停止させます。

ALOF [-p password]

例 アラームを停止させます。

rsh 192.168.1.211 ALOF [-p password]

③ ユーザ名チェック： CKID

アクセスユーザ名のチェックを有効または無効に設定します。また現在の状態を読み出します。パラメータ [Enable|Disable]**は大文字・小文字を区別します。**

CKID [Enable|Disable] [-p password] 【**出荷時設定**： Enable】

例 1 **アクセスユーザ名のチェックを無効にします。**

rsh 192.168.1.211 CKID Disable

root、Administrator **またはコマンドアクセス設定ページで登録したユーザ以外でログインしたマシンからもアクセスが可能になります。**

④ ネットワーク監視状態： CKIP

ネットワーク監視有効/無効を設定します。また現在の状態を読み出します。

CKIP [(T1)(T2)(T3)(T4)(T5)(T6)(T7)(T8)(T9)(T10)(T11)(T12)(T13)(T14)
(T15)(T16)(T17)(T18)(T19)(T20)] [-p password]

(T1)**〜**(T20)**の内容**: E=**有効** D=**無効** X=**状態保持** (**大文字小文字を区別しません**)

例 1 T1 **と** 3 **を有効、**T2 **を無効、他は変更しません。**

rsh 192.168.1.211 CKIP EDEXXXXXXXXXXXXXXXXX

例 2 **現在の状態を確認します。**

rsh 192.168.1.211 CKIP

返値： EDDEDDDDDDDDDDDDDDDD （T1 **と** T4 **のみ監視有効**）

※ **有効/無効切り替え処理に時間がかかるため、切り替えは前回設定より約** 5 **秒以上経過してから行うようにしてください。**

⑤ SNMP トラップ受信状態： CKST

SNMP **トラップ受信有効/無効の現在の状態を読み出します。**

CKST [-p password]

例 1 **現在の状態を確認します。**

rsh 192.168.1.211 CKST

返値： EDDEDDDDDDDDDDDDDDDD (T1 **と** T4 **のみ受信有効**)

⑥ ヘルプ： HELP

コマンドを一覧表示します。またコマンドの内容を表示します。

HELP [command] [-p password]

例 1 **コマンドリストの表示**

rsh 192.168.1.211 HELP [-p password]

例 2 **コマンド** ALOF **の説明表示**

rsh 192.168.1.211 HELP ALOF [-p password]

返値： alof : Alarm OFF

⑦ コマンドパスワード： LGPW

パスワードの設定を行います。パスワードは大文字・小文字を区別します。

LGPW [new-password] [-p password] 【**出荷時設定**： dn1300】

例 出荷時のパスワードを新しいパスワード isa **に変更します。**

rsh 192.168.1.211 LGPW isa –p dn1300

⑧ パスワードステータス： PWST

パスワードを有効または無効に設定します。また現在の状態を読み出します。パラメータ[Enable|Disable]**は大文字･小文字を区別します。**

PWST [Enable|Disable] [-p password]　　　　　　　　**【出荷時設定：** Disable**】**

例 1 **パスワードステータスを有効にします。**

rsh 192.168.1.211 PWST Enable

例 2 **パスワードステータスを無効にします。**

rsh 192.168.1.211 PWST Disable –p password

⑨ ランプコード取得： RDLP

DN-1300GL **のランプコード（枝番号）を読み出します。**

RDLP [-p password]

戻り値： 5　　: DN-1300GL-5L

3　　: DN-1300GL-3L

⑩ モデル名取得： RDMN

DN-1300GL **のモデル名を読み出します。**

RDLP [-p password]

例 DN-1300GL-5L **の場合**

rsh 192.168.1.211 RDMN

戻り値： DN-1300GL-5L

⑪ RDPD **製造年月取得**

DN-1300GL **の製造年月を読み出します。戻り値は** YYMM **形式で、**YY **が西暦の下二桁、**MM **が月です。**

RDPD [-p password]

例 製造年月を読み出します。

rsh 192.168.1.211 RDPD

戻り値： 1012　　（2010 年 12 月製造）

⑫ RDSN **シリアル番号取得**

DN-1300GL **のシリアル番号を読み出します。**

RDSN [-p password]

例　シリアル番号を読み出します。

rsh 192.168.1.211 RDSN

戻り値：　1010120123

⑬　ユニットID：　UTID

本製品のユニットIDを呼び出します。ユーザによって変更する事はできません。

例　本製品のユニットIDを呼び出します。

rsh 192.168.1.211 UTID [-p password]

返値：　1300

⑭　ファームウェア情報：　VERN

本製品のファームウェアバージョンを呼び出します。

例　本製品のバージョンを呼び出します。

rsh 192.168.1.211 VERN [-p password]

返値：　13.007.0E

工場出荷時の状態で本製品にコマンドを入力できるユーザは次のとおりです。

root　・　Administrator

本製品にアクセスできるユーザの登録は、「9.5　**コマンドアクセス設定**」**でセットしてください。全てのコマンドは大文字・小文字を区別しませんが、**Parameter **は区別するものもあります。上記のフォーマットに従って入力してください。**

リモートシェルは通常 UNIX、Windows Server 2003、XP、2000、NT **より実行可能です。**Windows 7、Server 2008、Vista、98、95 **では標準でサポートされていません。**

Windows 7、Server 2008、Vista、98、95 **で使用可能な** Windows **用リモートシェルコマンドを別途販売しております。デバック機能付きで、**LAN **プロトコル上の各種情報を表示する事もできます。必要な場合はお問合せください。** **詳細は⇒　http://www.isa-j.co.jp/product/softwares/others/IRSH/**

12.2. snmpset **コマンド**

本製品の snmp **コマンドを使用して、対象機器に値を設定することができます。**

（書式）

snmpset <ip-address> -c <community> <oid> <type> <value>

<ip-address>:

送信先 IP アドレス

<community>:

コミュニティ名 （必須）

<oid>:

enterprise(.1.3.6.1.4.1.)より後のオブジェクト ID

(例) "1333.1.2.1.1.17.0"と指定した場合".1.3.6.1.4.1.1333.1.2.1.1.17.0"が送信される。

<type>:

integer 整数

<value>:

設定する値 (範囲: 1～127)

（使用例）

IP **アドレス** 192.168.1.12 **の** OID ".1.3.6.1.4.1. 1333.1.2.1.1.17.0"**に** 2 **をセットする。**

```
snmpset 192.168.1.12 -c public 1333.1.2.1.1.17.0 integer 2
```

※ <oid> **を指定する際、**".1.3.6.1.4.1." (=iso(1) org(3) dod(6) internet(1) private(4) enterprises(1)) **部分を省いてください。送信時に自動的に付加されます。また、**"."**を先頭に付加しないでください。**

※ "-c <community>" **は必ず付加してください。**

※ **アクション設定「異常時コマンド実行/回復時コマンド実行」に複数のコマンドを記述するときは、セミコロン**(";")**で区切ってください。**

13. トラブルシューティング

トラブル状態	推定原因と処置
IP アドレスを忘れてしまった	RS-232C 接続で設定内容を確認できます。（付録 B （RS232C 接続による設定内容読出し）参照）
WEB でアクセスできない ping が通らない	IP アドレスを確認してください。RS-232C 接続で設定内容を確認する事ができます。（付録 B （RS232C 接続による設定内容読出し）参照）
ping は通るが、WEB でアクセスできない	WEB ブラウザがプロキシサーバを参照していませんか？プロキシサーバが本製品と接続できる設定がされていない場合、WEB 画面は見えません。WEB ブラウザの「ツール／インターネットオプション／接続／LAN の設定／プロキシサーバ」のチェックボックスを外し、本製品の WEB 画面が参照できるか確認してください。見えるようになった場合、ネットワーク管理者とご相談ください。
リモートシェルのコマンドパスワードを忘れてしまった	本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す必要があります。処理を実行する前に「設定データのバックアップ」を行えば、コマンドアクセス設定だけを工場出荷時の状態に戻す事ができます。「設定データのバックアップ」→「設定を工場出荷時の状態に戻す」→「設定データのリストア」でコマンドアクセス設定以外を選択します。（11.3〜11.5章参照）
WEB ツールの管理ユーザ名・パスワードを忘れてしまった	工場引取にて初期化する必要があります（ユーザ名・パスワードのみ）。ご購入元に依頼してください。設定データのバックアップファイルがある場合は、info@isa-j.co.jp までファイルを送付してください。（11.4章参照）
ALARM STOP ボタンを押しても、ランプとブザーのテストが実行できない	本製品が異常を検知している間、テストは実行されません。また本製品起動中（電源投入から 2〜3 分程）は実行されません。
異常ではないのに、アラームが頻繁に発生している	ネットワークが不安定な状態なのかもしれません。ユニット設定ページでモニタ間隔、応答確認回数を増やしてください。
リモートシェルでアクセスできない	工場出荷時の状態でアクセス可能なログインユーザは root と Administrator のみです。コマンドアクセス設定ページでユーザを登録するか、-l オプションで root や Administrator を指定してください。 例） rsh 192.168.1.1 –l root ACOP 登録後もアクセスできない場合は OS やウィルスソフトのファイアウォールの設定を確認してください。 WindowsXP SP2 以降については以下詳細を参照してください。 http://www.isa-j.co.jp/support/XPSP2/
Windows からの実行で、リモートシェルが完了しない、プロンプトが戻ってこない	-n オプションを追加してお試しください。 例） rsh 192.168.1.1 –n ACOP
コマンドプロンプトからだとリモートシェルでアクセスできるが、ネットワーク管理ソフトウェア（NNM）からだとアクセスできない	NNM からコマンドを実行する場合、ユーザ名がログインユーザと異なる場合があるようです。CKID コマンド（12.1章参照）でユーザ名チェックを無効にするか、ユーザ名を NNM メーカにお問合せください。
Windows2000 から rsh を同時に大量送信すると、画面上にウィンドウが残る	rsh がタイムアウトを検出できないためにこのような現象が起こっているようです。別売の ISA 製リモートシェル（irsh）ではタイムアウト検出が可能なので、このような症状は起こりません。irsh は Windows95/98/Vista/2008/7 にも対応しています。必要な場合はお問合せください。詳細は↓ http://www.isa-j.co.jp/product/softwares/others/IRSH/
工場出荷時設定のユーザ名(DN1300)、パスワード(DN1300)を入力してもログインできない	ブラウザ側で大文字を小文字に自動変換するようになっていないか確認してください。
ブラウザから http://xxx.xxx.xxx.xxx でアクセスした時に真白な画面が表示されアクセスできない	Windows サーバ系の PC などセキュリティ設定によりアクセスできない場合があります。その場合、http://xxx.xxx.xxx.xxx/cgi-bin/start.cgi でアクセスし、信頼済みサイトのゾーンに追加を行うことでアクセスできるようになります。

14. 仕様

14.1. 本体仕様

本体仕様		
型式	DN-1300GL-5Lxy ※下記参照	DN-1300GL-3Lxy ※下記参照
外観	(イメージは DN-1300GL-5LCB)	(イメージは DN-1300GL-3LSW)
ランプ	赤、黄、青、緑、白	赤、黄、緑
ブザー	連続音・断続音 70～90dB	
監視ノード	最大 20 ノード	
監視方式	ICMP Echo Reply(ping)のポーリングによる	
設定方式	Web ブラウザによる	
ソフトウェア	Embedded Linux WEB 上よりファームウェア・アップデート可能	
プロトコル	TCP/IP,UDP,ARP,ICMP,TFTP,FTP,RSH,HTTP,SNMP,SMTP,NTP	
CPU	ARM7TDMI コア 32bit RISC プロセッサ	
メモリ	4MB FLASH 16MB RAM	
RTC	バックアップ付	
LED 表示器	Link/Activity、Error、WatchDog	
ALARM STOP ボタン	有 （ランプ・ブザーテストボタンを兼ねる。動作時は緑色に点灯）	
使用環境条件	温度：0～45℃、湿度：20%～85%RH（結露なきこと）、標高 3,000m 以下	
電源	専用 AC アダプタ(標準添付品)	
外形寸法	W: 160mm／H: 330mm／D: 125mm	W: 160mm／H: 270mm／D: 125mm
質量	0.8kg（0.9kg AC アダプタ含む場合）	0.7kg（0.8kg AC アダプタ含む場合）
その他	設定データはフラッシュメモリに書き込むため電源を切っても消えません	

※型式：DN-1300GL-5Lxy

-3Lxy

5L:5 灯タイプ
3L:3 灯タイプ

x = レンズ
C:色付きレンズ
S:透明レンズ

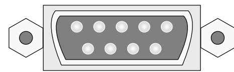
y = ボディ
B:ダークグレー
W:ライトグレー

14.2. 本体機能

本体機能	
ネットワーク監視機能	最大 20 ノード、ルータを越えの監視可能 監視対象 IP アドレス自動検出機能 保守時など監視を一時的に停止できます 監視対象毎のアクション(警告灯の色指定など)指定が可能
SNMP トラップ監視機能	最大 20 組(40 個)の OID と IP アドレスの組合せで監視可能 異常 OID に対する回復 OID を登録する事によりアクションの自動停止が可能 OID と IP アドレスの登録がない場合、全ての SNMP トラップ受信でアクションを実行
警報・通知機能	警告灯の色、点滅・連続点灯、ブザーの断続・連続鳴動およびその組合せ指定による警報 最大 5 箇所の指定通知先(携帯電話を含む)への E-mail 送信 最大 5 箇所の指定通知先へのメッセージ通知(IP Messenger) 最大 5 箇所の指定通知先への SNMP トラップ送信
NNM との連携	管理ソフトウェアの アクション記述により警告灯の点灯、ブザーの鳴動可能 異常発見時、NNM に SNMP トラップによる通知可能
ログ機能	異常の発生、復帰などをタイムスタンプと共に記録 自動メール送信機能（イベントログを添付ファイルとしてメール送信） ※イベント毎にフラッシュメモリへ書き込むため電源を切っても消えません。
監視対象の自動再起動	別売電源コントローラとの組合せにより、監視対象機器の自動再起動（電源の遮断・再投入）可能

14.3. コネクタ仕様

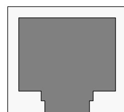
【RS-232C CONSOLE】メンテナンス用コンソールポート



1	CD
2	RD
3	SD
4	ER
5	SG
6	DR
7	RS
8	N.C
9	N.C

IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定が確認できます。
IP アドレスを忘れてしまった時などに使用してください。詳細は付録 B （RS232C 接続による設定内容読出し）を参照してください。

【10Base-T/100Base-Tx】LAN ポート



15. アフターサービスについて

ユーザ登録について

この製品にはお客様登録 FAXカードが付いています。お客様登録FAXカードには必要事項をご記入いただき、ただちに返信してください（または弊社ホームページよりユーザ登録を行ってください http://www.isa-j.co.jp/support/user/）。お客様登録されていないお客様については保証期間内であってもサービスが受けられない場合があります。

保証期間は出荷後 1 年間です。

修理を依頼されるときは

異常がある場合は、使用をやめてお買い上げの販売店へ修理をお申しつけください。



危険！

お客様自身での修理は危険ですので絶対に行わないでください。

保証期間中は

お買い上げの販売店に修理をお申しつけください。16章保証規定に従って無償で修理致します。

【ご連絡いただきたい内容】

品　　名：
モデル名：
お買い上げ日：
お買い上げの販売店名：
故障の状態（できるだけ具体的に）：

保証期間後の修理は

お買い上げの販売店にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有償で修理いたします。

本装置の設計耐用年数は約 5 年です。

※　別途保守サービスメニューを用意しております。万が一の時のために、ぜひご契約をご検討ください。
保守サービスメニューのご案内⇒ http://www.isa-j.co.jp/keiko-10th/products/3g/support.html

16. 保証規定

1. 取扱説明書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、引取にて無料修理させていただきます。この場合お客様が、ご使用システムから故障機器を「切り離し」下記窓口へお送りください。

2. 修理品の輸送料金及び諸掛かりはお客様の負担となります。輸送される場合は輸送中の破損がないように適切な梱包を行ってください。

3. 保証期間内でも次のような場合は有料修理になります。

(イ) 取扱上の不注意による故障及び損傷
(ロ) 不当な修理や改造による故障及び損傷
(ハ) 火災、地震、水害、雷、その他の天災地変及び異常電圧による故障及び損傷
(ニ) お買い上げ後の輸送、移動時のお取扱いが不適当なために生じた故障及び損傷
(ホ) 分解、もしくは分解したと思われる形跡(傷跡・半田跡等)が確認された場合
(ヘ) ユーザ登録されていないお客様の場合
(ト) 本製品に接続している当社指定機器以外の機器の故障によって生じた故障
(チ) 消耗部品及び付属品の交換

本装置使用中において、本装置及び接続されるシステムに万一不具合や故障が発生しても原因の如何を問わずその結果については責任を負いかねます。

アフターサービスについて分からない事は、お買い上げの販売店または下記までご連絡ください。

株式会社アイエスエイ　国内営業部

〒160-0022 東京都新宿区新宿 6-24-16
お電話によるお問い合せは　03-3208-1563
FAX によるお問い合せは　03-3208-1335
E-mail によるお問い合せは　info@isa-j.co.jp

付録 A （ネットワーク管理ソフトウェアとの連携）

　HP Network Node Manager software に代表されるネットワーク管理ソフトウェアで検知された異常を本製品が光と音で知らせます。管理者が管理ステーションから離れていても即座に異常を認知できます。
ネットワーク管理ソフトウェアが異常を検知した時に実行されるメニューに以下のコマンドを記述すれば、本製品のランプやブザーを ON にする事ができます。

rsh *DN1300_IP* ACOP 1xxxxxxx

（DN1300_IP　は本製品の IP アドレスを入力します。）

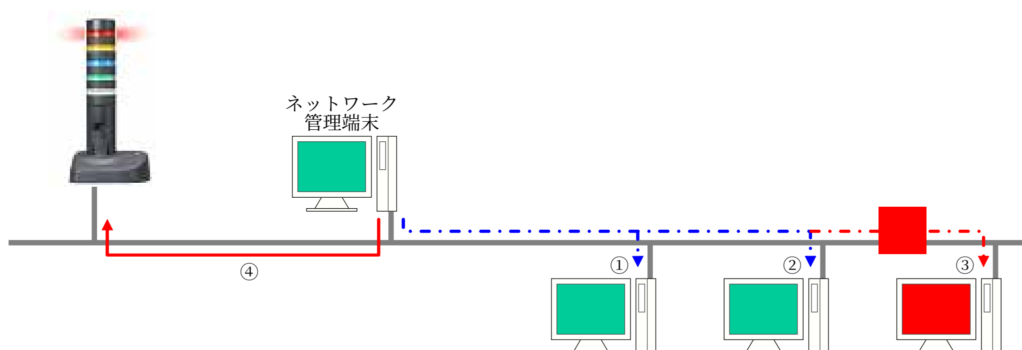


図44 ネットワーク管理ソフトウェアとの連携例

尚、工場出荷時の状態で本製品にコマンドを入力できるユーザは root 及び Administrator のみです。ネットワーク管理ソフトウェアよりコマンドを実行する場合は、ネットワーク管理ソフトウェアのユーザ名（”SYSTEM”、”bin”等）を登録する必要があります。

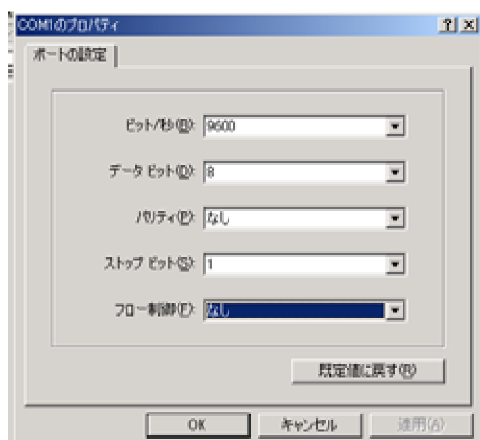
これらのユーザは9.5章コマンドアクセス設定ページにて登録してください。

付録 B （RS232C 接続による設定内容読出し）

RS232C CONSOLE ポートより PC とシリアル接続して、IP アドレス等の基本的な設定内容を確認する事ができます。

【手順】

① RS232C CONSOLE と PC をシリアル接続し、通信ソフトを起動・設定します。
（DB-9S クロスケーブルを使用します。）



通信ソフトとしてハイパーターミナルを使用した例です。

設定内容
9600 ビット/秒
8 データビット
パリティなし
ストップビット1
フロー制御なし

② ターミナル画面が表示されたら、本製品の RESET ボタンを押下し、本製品をリセットします。

③ BIOS(0)> プロンプトが表示されますので sysconf view と入力してください。
BIOS(0)> プロンプトは 10 秒程放置または、[Enter]キーを入力すると本製品が起動し、login:プロンプトが表示されてしまいます。その場合、再度リセットを行ってください。Enter 以外のキーを 1 回入力すると、自動的に起動はしません。

④ 本製品を起動するには boot rom と入力します。login:プロンプトが表示されたらターミナルを閉じてください。本製品にログインする事はできません。

また、sysconf set と入力し、IP アドレス等の変更を行う事も可能です。

```
+==================================================+
|            System Configuration Table            |
+==================================================+
|              Network Configuration               |
+--------------------------------------------------+
|  IP Address : 192.168.1.1                        |
|  Gateway IP : 192.168.1.254                      |
|  Subnet Mask : 255.255.255.0                     |
|  TFTP Server IP : 192.168.1.195                  |
|  TFTP Boot File : c:¥tftp¥k2appl.bin             |
|  Ethernet Address : 00:a0:66:0f:01:09            |
+==================================================+

BIOS(1)> boot rom
```

設定確認後は必ず boot rom を実行し本製品を起動させてください。
BIOS モードのままでは、本製品は機能しません。

付録 C （DN-1300GL サポート・プロトコル）

1. TCP/IP (Transmission Control Protocol over Internet Protocol)
インターネットをひとつにまとめている基本的なプロトコル（通信規格）であり、WWW や E-mail などのインターネットサービスはすべて TCP/IP のもとで動いている。TCP/IP は、実際には 2 つの接続プロトコルを 1 つにまとめたものである。現在インターネットに接続する場合だけでなく、複数のコンピュータを接続する際の事実上の標準プロトコルとなっている。

2. UDP （User Datagram Protocol）
TCP と同様に、OSI 参照モデルのトランスポート層に相当するプロトコル。TCP が送達確認を行うコネクション型プロトコルであるのに対して、UDP は送達確認を行わないコネクションレス型プロトコル。

3. ARP （Address Resolution Protocol）
アドレス解決に使用されるプロトコル。IP アドレスと MAC アドレスをマッピングするときに使用する。クライアントは、各種サーバの IP アドレスを知る事ができるが、LAN 上の MAC アドレスまでは分からない。そこで、相手先 IP アドレスを記入した ARP リクエストパケットをネット上に送信し、宛先 IP アドレスを持つサーバが自身の MAC アドレスを記入する ARP リプライパケットを受信して LAN 上での通信を行う。

4. ICMP (Internet Control Message Protocol)
IP によるデータ転送でエラーが発生した場合、それをメッセージで通知するためのプロトコル。このメッセージは、IP パケットのデータ部に埋め込まれて送られる。（本製品はこれで監視対象の生き・死にを確認しています。）

5. TFTP (Trivial File Transfer Protocol)
TCP/IP ネットワークにつながれた端末の起動などに使われる簡易ファイル転送プロトコル。（本製品では F/W アップデート等に使用しますが、工場レベルでの事になり、一般ユーザが利用する事はありません。）

6. FTP （File Transfer Protocol）
ネットワーク上に存在するノード間でファイル転送を可能にするプロトコル。FTP サーバと FTP クライアントは、TCP が開設するコネクションを利用して通信を行う。コネクションはリスト情報や転送モードを交換するための制御用コネクションと、実際のデータを転送する時に使用するデータコネクションが開設される。ポート番号は 10 が使用される。（本製品では自身のもつ log の取得等が可能になります。現状は使用していません。また一般ユーザが利用する事はありません。）

7. RSH （Remote SHell protocol）
システムにログインせずに、リモート システムからコマンドを実行できるようにするプロトコル。例えば、アクセス サーバ数の状況を調べたい時も、それぞれのコミュニケーションサーバに接続し、コマンドを実行、その後コミュニケーションサーバから切断、といった事を行わず、リモートで作業できる。（本製品ではアクションの異常時や回復時コマンドで使用できます。）

8. HTTP （HyperText Transfer Protocol）
WWW サーバと Web ブラウザとの間で HTML 文書のやり取りをするためのプロトコル。Web ブラウザから URL(Uniform Resource Locator)という書式で WWW サーバ上の HTML 文書を指定し、呼び出す事ができる。（本製品ではこれで制御・設定やモニタを行います。）

9. SNMP（Simple Network Management Protocol）

ネットワーク管理のためのプロトコル。マネージャとエージェントから構成され、エージェント側では管理項目を項目別に蓄積、マネージャからのポーリングにより蓄積したデータをマネージャに渡す。管理項目ごとに一定の値を設定しておき、その値を超えた場合にマネージャにエージェントから通報する機能もサポートする。（本製品では自身の ON/OFF トラップをネットワーク管理ソフトウェアに通知できます。また SNMP による状態の読出しや制御も可能です。）

10. SMTP（Simple Mail Transfer Protocol）

電子メールを送信する時に使用するプロトコル。電子メールの送信時には SMTP、受信時には POP3 が利用される。（本製品ではアラーム発生時などに電子メールでの通知が可能です。）

11. NTP (Network Time Protocol)

インターネットのなかに置かれている無線時計および原子時計を参照する事により、正確な現地時間を維持するプロトコル。TCP の上位で使われる。このプロトコルは、長期間にわたって分散化された時計をミリ秒単位で同期できる。（本製品ではタイムサーバの指定が可能です。）

付録 D （SNMP　MIB 一覧）

X=.iso(1).org(3).dod(6).internet(1).private(4).enterprises(1)

ObjectIdentifirer	ObjectName	SYNTAX	MAX-ACCESS	DESCRIPTION
X.1333.1.2.5.1.1.0	ctrlUnitID	DisplayString (SIZE (4))	read-only	This is the unit identifier for the ISA data-net product
X.1333.1.2.5.1.2.0	ctrlVersion	DisplayString (SIZE (9))	read-only	This is the firmware version number
X.1333.1.2.5.1.3.0	ctrlUser1	DisplayString (SIZE (0..30))	read-only	1st login user which allow to control over the DN-1300GL unit
X.1333.1.2.5.1.4.0	ctrlUser2	DisplayString (SIZE (0..30))	read-only	2nd login user which allow to control over the DN-1300GL unit
X.1333.1.2.5.1.5.0	ctrlUser3	DisplayString (SIZE (0..30))	read-only	3rd login user which allow to control over the DN-1300GL unit
X.1333.1.2.5.1.6.0	ctrlUser4	DisplayString (SIZE (0..30))	read-only	4th login user which allow to control over the DN-1300GL unit
X.1333.1.2.5.1.7.0	ctrlUser5	DisplayString (SIZE (0..30))	read-only	5th login user which allow to control over the DN-1300GL unit
X.1333.1.2.5.1.8.0	ctrlEthAddr	OCTET STRING	read-only	This is the Ethernet Address of the unit DN-1300GL
X.1333.1.2.5.1.9.0	ctrlIPAddr	IPADDRESS	read-only	This is the IP Address of the unit DN-1300GL
X.1333.1.2.5.1.10.0	ctrlGatewayAddr	IPADDRESS	read-only	This is the Gateway Address for unit DN-1300GL
X.1333.1.2.5.1.11.0	ctrlSubnetMask	IPADDRESS	read-only	This is the Subnet Mask for unit DN-1300GL
X.1333.1.2.5.1.12.0	ctrlNetMgrAddr1	IPADDRESS	read-only	1st IP Address of the Network Manager Address for unit DN-1300GL
X.1333.1.2.5.1.13.0	ctrlNetMgrAddr2	IPADDRESS	read-only	2nd IP Address of the Network Manager Address for unit DN-1300GL
X.1333.1.2.5.1.14.0	ctrlNetMgrAddr3	IPADDRESS	read-only	3rd IP Address of the Network Manager Address for unit DN-1300GL
X.1333.1.2.5.1.15.0	ctrlNetMgrAddr4	IPADDRESS	read-only	4th IP Address of the Network Manager Address for unit DN-1300GL
X.1333.1.2.5.1.16.0	ctrlNetMgrAddr5	IPADDRESS	read-only	5th IP Address of the Network Manager Address for unit DN-1300GL
X.1333.1.2.5.1.17.0	ctrlTargetIP1	IPADDRESS	read-only	1st target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.18.0	ctrlTargetIP2	IPADDRESS	read-only	2nd target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.19.0	ctrlTargetIP3	IPADDRESS	read-only	3rd target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.20.0	ctrlTargetIP4	IPADDRESS	read-only	4th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled

ObjectIdentifirer	ObjectName	SYNTAX	MAX-ACCESS	DESCRIPTION
X.1333.1.2.5.1.21.0	ctrlTargetIP5	IPADDRESS	read-only	5th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.22.0	ctrlTargetIP6	IPADDRESS	read-only	6th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.23.0	ctrlTargetIP7	IPADDRESS	read-only	7th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.24.0	ctrlTargetIP8	IPADDRESS	read-only	8th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.25.0	ctrlTargetIP9	IPADDRESS	read-only	9th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.26.0	ctrlTargetIP10	IPADDRESS	read-only	10th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.27.0	ctrlTargetIP11	IPADDRESS	read-only	11th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.28.0	ctrlTargetIP12	IPADDRESS	read-only	12th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.29.0	ctrlTargetIP13	IPADDRESS	read-only	13th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.30.0	ctrlTargetIP14	IPADDRESS	read-only	14th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.31.0	ctrlTargetIP15	IPADDRESS	read-only	15th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.32.0	ctrlTargetIP16	IPADDRESS	read-only	16th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.33.0	ctrlTargetIP17	IPADDRESS	read-only	17th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.34.0	ctrlTargetIP18	IPADDRESS	read-only	18th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.35.0	ctrlTargetIP19	IPADDRESS	read-only	19th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled
X.1333.1.2.5.1.36.0	ctrlTargetIP20	IPADDRESS	read-only	20th target IP address which is monitor by DN-1300GL unit whencheck target mode is enabled

ObjectIdentifirer	ObjectName	SYNTAX	MAX-ACCESS	DESCRIPTION
X.1333.1.2.5.1.37.0	ctrlCheckIPMode	DisplayString (SIZE (10))	read-only	This is the select mode for targets IP. E-Enable　:監視有効 D-Disable　:監視無効 F-Fail　:警告中
X.1333.1.2.5.1.38.0	ctrlCheckInterval	INTEGER (1..9999)	read-only	This is the timer between each polling(in minute)
X.1333.1.2.5.1.39.0	ctrlRly1	INTEGER { on(1), off(2), blink(3) quickBlink(4) }	read-write	1st Relay output state （赤） 1：点灯 2：消灯 3：点滅 4：高速点滅
X.1333.1.2.5.1.40.0	ctrlRly2	INTEGER { on(1), off(2), blink(3) quickBlink(4) }	read-write	2nd Relay output state （黄） 1：点灯 2：消灯 3：点滅 4：高速点滅
X.1333.1.2.5.1.41.0	ctrlRly3	INTEGER { on(1), off(2), blink(3) quickBlink(4) }	read-write	3rd Relay output state （緑） 1：点灯 2：消灯 3：点滅 4：高速点滅
X.1333.1.2.5.1.42.0	ctrlRly4	INTEGER { on(1), off(2), blink(3) }	read-write	4th Relay output state 1：ブザー連続音鳴動 2：ブザー連続音停止
X.1333.1.2.5.1.43.0	ctrlRly5	INTEGER { on(1), off(2), blink(3) }	read-write	5th Relay output state 1：ブザー断続音鳴動 2：ブザー断続音停止
X.1333.1.2.5.1.44.0	ctrlRly6	INTEGER { on(1), off(2), blink(3) quickBlink(4) }	read-write	6th Relay output state （青） 1：点灯 2：消灯 3：点滅 4：高速点滅
X.1333.1.2.5.1.45.0	ctrlRly7	INTEGER { on(1), off(2), blink(3) quickBlink(4) }	read-write	7th Relay output state （白） 1：点灯 2：消灯 3：点滅 4：高速点滅
X.1333.1.2.5.1.46.0	ctrlRly8	INTEGER { on(1), off(2), blink(3) }	read-write	8th Relay output state 未使用
X.1333.1.2.5.1.47.0	ctrlACOP	OCTET STRING (SIZE(8))	read-write	This is relays output state control command. 1：点灯 2：消灯 3：点滅 4：高速点滅 X：状態保持
X.1333.1.2.5.1.48.0	ctrlALOF	INTEGER { ALOF(1) }	read-write	Write: 1 to stop all alarm. Read: always 0
X.1333.1.2.5.1.49.0	ctrlModelName	OCTET STRING (SIZE(0..30))	read-only	モデル名取得

ObjectIdentifirer	ObjectName	SYNTAX	MAX-ACCESS	DESCRIPTION
X.1333.1.2.5.1.50.0	ctrlLampId	OCTET STRING (SIZE(1))	read-only	ランプコード取得 5: 5L 3: 3L R: 1R G: 1G
X.1333.1.2.5.1.51.0	ctrlSerialNumber	OCTET STRING (SIZE(10))	read-only	シリアル番号取得
X.1333.1.2.5.1.52.0	ctrlProductDate	OCTET STRING (SIZE(4))	read-only	製造年月取得 YYMM

※従来機種(DN-1000R(N)シリーズ、DN-1000S) との互換性

以下の ObjectName の Object は DN-1000R(N)シリーズ、DN-1000S で定義されている OID にてアクセス可能です。

ctrlUnitID, ctrlVersion, ctrlUser1〜ctrlUser5, ctrlEthAddr, ctrlIPAddr, ctrlGatewayAddr, ctrlSubnetMask, ctrlNetMgrAddr1〜ctrlNetMgrAddr, ctrlTargetIP1〜 ctrlTargetIP20, ctrlCheckIPMode, ctrlCheckInterval, ctrlRly1〜 ctrlRly8, ctrlACOP, ctrlALOF

SNMP トラップ一覧

（ISA プライベート MIB）

固有番号	エンタープライズ OID ．固有トラップ番号	内容	詳細トラップ
3	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.3	ネットワーク異常	△
4	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.4	ネットワーク回復	△
22	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.22	ネットワークモニタ 1 異常	○
23	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.23	ネットワークモニタ 1 回復	○
24	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.24	ネットワークモニタ 2 異常	○
25	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.25	ネットワークモニタ 2 回復	○
26	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.26	ネットワークモニタ 3 異常	○
27	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.27	ネットワークモニタ 3 回復	○
28	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.28	ネットワークモニタ 4 異常	○
29	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.29	ネットワークモニタ 4 回復	○
30	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.30	ネットワークモニタ 5 異常	○
31	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.31	ネットワークモニタ 5 回復	○
32	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.32	ネットワークモニタ 6 異常	○
33	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.33	ネットワークモニタ 6 回復	○
34	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.34	ネットワークモニタ 7 異常	○
35	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.35	ネットワークモニタ 7 回復	○
36	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.36	ネットワークモニタ 8 異常	○
37	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.37	ネットワークモニタ 8 回復	○
38	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.38	ネットワークモニタ 9 異常	○
39	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.39	ネットワークモニタ 9 回復	○
40	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.40	ネットワークモニタ 10 異常	○
41	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.41	ネットワークモニタ 10 回復	○
42	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.42	ネットワークモニタ 11 異常	○
43	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.43	ネットワークモニタ 11 回復	○
44	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.44	ネットワークモニタ 12 異常	○
45	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.45	ネットワークモニタ 12 回復	○
46	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.46	ネットワークモニタ 13 異常	○
47	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.47	ネットワークモニタ 13 回復	○
48	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.48	ネットワークモニタ 14 異常	○
49	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.49	ネットワークモニタ 14 回復	○
50	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.50	ネットワークモニタ 15 異常	○
51	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.51	ネットワークモニタ 15 回復	○
52	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.52	ネットワークモニタ 16 異常	○
53	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.53	ネットワークモニタ 16 回復	○
54	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.54	ネットワークモニタ 17 異常	○
55	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.55	ネットワークモニタ 17 回復	○

固有番号	エンタープライズ OID ．固有トラップ番号	内容	詳細トラップ
56	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.56	ネットワークモニタ 18 異常	○
57	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.57	ネットワークモニタ 18 回復	○
58	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.58	ネットワークモニタ 19 異常	○
59	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.59	ネットワークモニタ 19 回復	○
60	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.60	ネットワークモニタ 20 異常	○
61	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.61	ネットワークモニタ 20 回復	○
62	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.62	SNMP トラップ異常	△
63	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.63	SNMP トラップ回復	△
64	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.64	SNMP トラップ 1 異常	○
65	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.65	SNMP トラップ 1 回復	○
66	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.66	SNMP トラップ 2 異常	○
67	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.67	SNMP トラップ 2 回復	○
68	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.68	SNMP トラップ 3 異常	○
69	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.69	SNMP トラップ 3 回復	○
70	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.70	SNMP トラップ 4 異常	○
71	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.71	SNMP トラップ 4 回復	○
72	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.72	SNMP トラップ 5 異常	○
73	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.73	SNMP トラップ 5 回復	○
74	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.74	SNMP トラップ 6 異常	○
75	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.75	SNMP トラップ 6 回復	○
76	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.76	SNMP トラップ 7 異常	○
77	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.77	SNMP トラップ 7 回復	○
78	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.78	SNMP トラップ 8 異常	○
79	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.79	SNMP トラップ 8 回復	○
80	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.80	SNMP トラップ 9 異常	○
81	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.81	SNMP トラップ 9 回復	○
82	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.82	SNMP トラップ 10 異常	○
83	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.83	SNMP トラップ 10 回復	○
84	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.84	SNMP トラップ 11 異常	○
85	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.85	SNMP トラップ 11 回復	○
86	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.86	SNMP トラップ 12 異常	○
87	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.87	SNMP トラップ 12 回復	○
88	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.88	SNMP トラップ 13 異常	○
89	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.89	SNMP トラップ 13 回復	○
90	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.90	SNMP トラップ 14 異常	○
91	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.91	SNMP トラップ 14 回復	○
92	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.92	SNMP トラップ 15 異常	○
93	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.93	SNMP トラップ 15 回復	○
94	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.94	SNMP トラップ 16 異常	○
95	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.95	SNMP トラップ 16 回復	○
96	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.96	SNMP トラップ 17 異常	○
97	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.97	SNMP トラップ 17 回復	○
98	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.98	SNMP トラップ 18 異常	○
99	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.99	SNMP トラップ 18 回復	○
100	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.100	SNMP トラップ 19 異常	○
101	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.101	SNMP トラップ 19 回復	○
102	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.102	SNMP トラップ 20 異常	○
103	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.103	SNMP トラップ 20 回復	○
104	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.104	ALARM STOP ボタン ON	◎
105	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.105	ALARM STOP ボタン OFF	◎
200	.1.3.6.1.4.1.1333.1.2.5.200	コールドスタート （注）	◎

※詳細トラップ欄

△：SNMP トラップ設定ページの「詳細トラップ」にチェックを入れない場合に送信されるトラップ

○：SNMP トラップ設定ページの「詳細トラップ」にチェックを入れた場合に送信されるトラップ

◎：SNMP **トラップ設定ページの「詳細トラップ」に関係なく送信されるトラップ**

（SNMP **トラップ設定ページの「詳細トラップ」については、**9.3**章参照**）

（注）　電源投入または Web **メニューの再起動を実行またはリセットボタンを押下により、**
機器が初期スタートしたことを意味する

<memo>

<memo>

<memo>

開発･製造　＜技術お問い合わせ先＞

株式会社アイエスエイ　カスタマサポート

〒160-0022 **東京都新宿区新宿** 6-24-16

お電話によるお問い合せは　03-3208-1243

FAX によるお問い合せは　03-3208-1335

E-mail によるお問い合せは　info@isa-j.co.jp